

(5)

南西方面海軍民政府関係

REEL No. A-1179

0094

アジア歴史資料センター

昭和十七年七月

第一

第一章

政治

組織

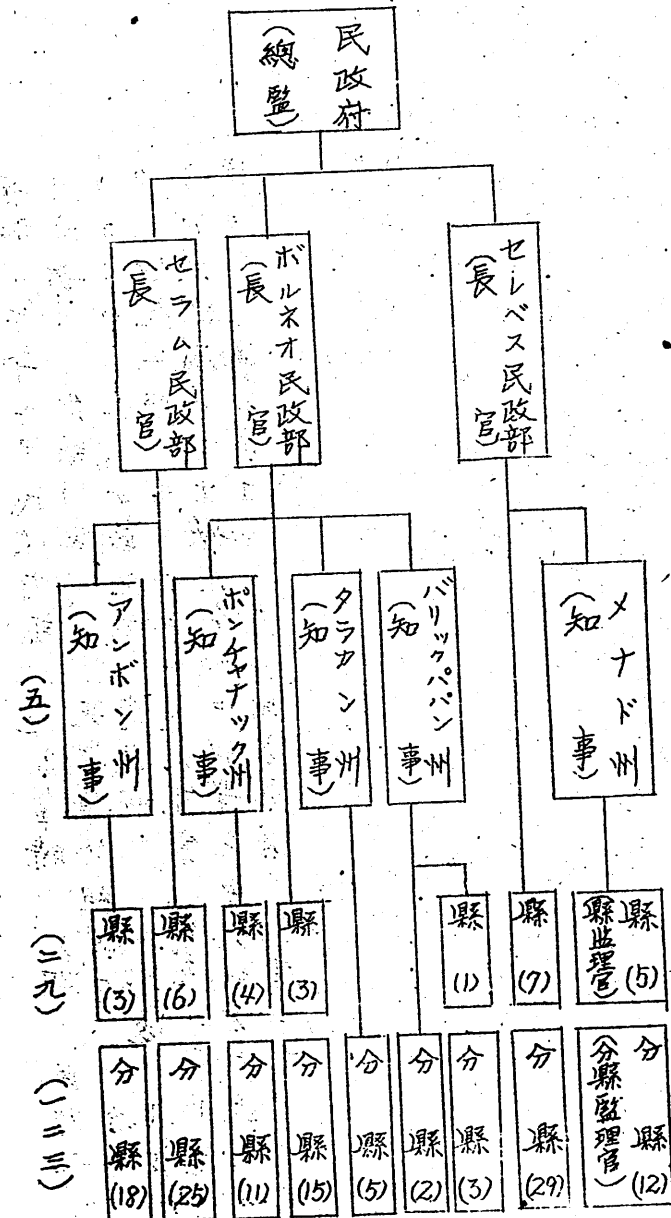
職員

確立

(一) 昭和十七年七月、民政村現地進出當時、状況ハ民政部ノ下
ニ支部又ハ出張所在リ、中央集権的組織ヲ以テ行政一當
リアリタルモ、我が政治力、急速強カナル滲透ハ地方行政
力、強化ニ俟ツモ、ニシテ之ガ充實ハ緊急要務ト認メル
方行政組織トシテ、縣及分縣ヲ設置シ、中央地方ヲ通スル
織ヲ左ノ通整備スルト共ニ地方要員ノ充實ニ努メタリ

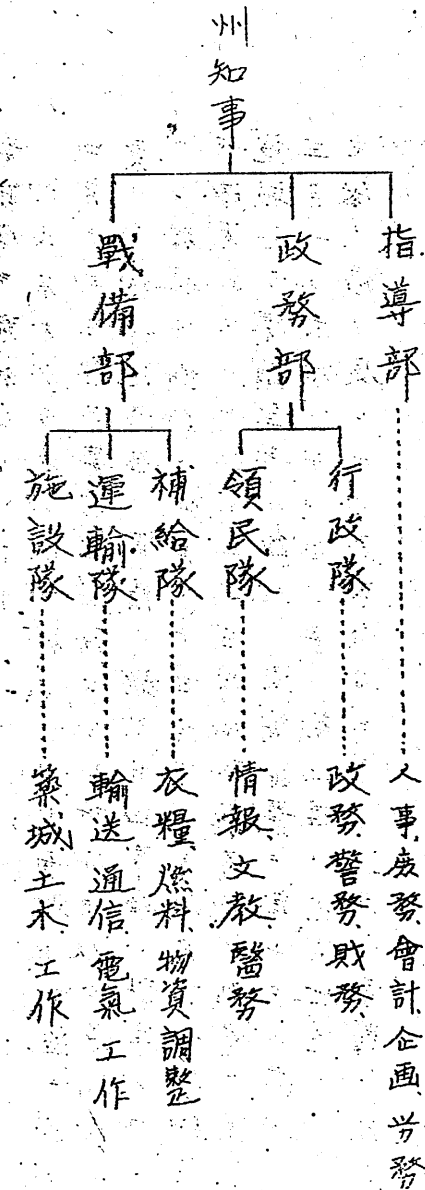
然ルニ十八年ニ至リ鎌倉丸遭難ニ依リ地方要員増強計畫
ニ當リテ來シタリ九月一日第四南遣艦隊、新設ニ伴
ヒ當府管轄區域縮小セラレタルコトアリ一年有半ニ亘ル
機構運管、實際ニ徴シ組織ヲ簡素ニスルコト（民政部ハ
官房五局十四課トシ、民政部ハ政務課ニシテ、一（民政部
地方分権制ヲ執ルコト（縣ヲ以テ地方行政ノ單位トシ、縣
監理官ノ權限ヲ擴大ス、民衆ヲ直接強力ニ指導スルコト及
特殊行政部門ヲ整備スルコト（遞信局放送局ヲ見地ヨリ十九
年五月一日附機構改革實施セラレ當府ニ於テハ即日改正
ヲ實施シ、當府附屬機關及民政部以下、地方機構ニ付テハ
同年六月ヨリ實施スルコト共ニ人材、配置ニ依リ改革ノ實
効ヲ舉グルコトヲ期シタリ、其ノ後同年十月、茅ニ十四
建設部、幾止ニ伴ヒ、フワローレス、島以東編入セラレタル
ヲ以テ三縣ヲ新設シ、更ニ本年ニ入リ交通其ノ他各地ノ實
情ト當面ノ要請ニ基キ、ホンヤナ、州ニサンガワ縣（三月
十月及ボルネオ民政部直轄區域ニマルタプウラ縣（六月十
日ヲ新設セリ

備考（一）ハ廳長職名（二）ハ縣、分縣ノ數



2. 官房長及局長ヲ廢シ次長ヲ置ク次長ハ總監ヲ輔佐
 3. 府務ヲ整理ス
 4. 統括事務ヲ各民政部ニ移管シ遞信局ハ必要最少限度
 5. 所ハセレバ民政部ニ移管ス
 6. 民政部スラバ民政部連絡部ニ移管ス
 7. 在ス民政部連絡部ニ移管ス
 8. 部長トスルスラバ民政部連絡部ヲ設置セリ(民政府令第21
 7號)
 1. 連絡部所掌事項
 a. 民政府及管下各廳ト在ジャワ關係各部隊及廳ト
 b. 連絡部所掌事項
 c. 民政府管下向物資事務ノ運輸ニ關スル事項
 d. ジャワ地區ニ於ケル海員養成ニ關スル事項
 e. ジャワ地區ニ於ケル民政府及管下各廳職員ノ監
 督ニ關スル事項
 2. 其ノ他特ニ命ゼラルル事項
 3. 連絡部ニ庶務科 經濟科 運輸科 醫務科及勞務
 科ヲ置ク
 4. 連絡部ニジャカルタスマラン出張所及ニプロポリ
 マカツサル研究所
 5. 農林水産部ハホルネオ及セレバ民政部ニ分屬ス
 6. 人員機材ハ民政部本部及地方機關ニ分屬シ情況ニ依
 7. 應ジテハ外局ハ民政部本部及地方機關ニ分屬シ情況ニ依
 8. 製造所及養成所ハセレバ民政部ニ移管ス
 9. 以上ノ中ノ要モハ艦隊司令部又ハ民政府スラバ配
 10. 屬シ瓜哇所在人員機材ハ原則トシテ民政府スラバ配
 11. 連絡部ニ屬ス

設ヶ所在根據地隊機南ト、連絡ヲ緊ニセリ
ヘ、メナド州ニ於テ、昨年九月情勢緊迫ト共ニ皇民義勇
軍發動セラレ、爾來皇民義勇軍組織、下ニ軍政ヲ實施シ
アリシ處本年三月五日附第八警備隊司令ノ知事兼務
ト共ニ非常措置トシテ四月一日ヨリ八警及ビ司令區處
下、各部及ビ民間ヨリ所要ノ人員ヲ補充シ、右ノ如ク機
構ヲ改メ、試行シツツアリ



政5

(四)

職員ノ現況
民政府並ニ管下各廳配員ノ人事事務ハ民政要員ノ特殊性
ニ鑑ミ、最近ニ於テ主ナル異動ハ去ル五月府附屬機關タ
ル地方郵便局及地方放送局ノ行政部門ヲ民政部ニ移管シ
奏任官十八名判任官四十三名ヲ轉出セシメ、尙今回ノ臨時
措置ニ基キ府機構ノ縮小並ニマカッサル研究所ノ全面的
事務ヲ一時閉鎖シ、最モ緊要ナル第一線行政部門ノ要員充
實ノ爲府ヨリ奏任官十八名判任官十二名其、他二十七名
ヲマカッサル研究所ハ府及各民政部ニ夫々所要ノ要員ヲ
轉出セシムルト相當數ノ職員ヲ派遣スル等軍政下ニ於ケル
要員配置ハ萬全ヲ期シ、益々緊急事態ノ要請ニ即應スベク之
が体制ヲ圖リツツアリ
當府現在ノ定員現員比較對照表及臨時措置前後ニ於ケル
職員増減表左ノ如シ
民政府定員現員比較對照表(昭和ニ〇五五現在)

| 官 | 職 | 定員 | 現員 | 員缺 |
|---|---|----|----|----|
| | | | | |

| 官職 | 臨時措置前後 | 臨時措置前 | 臨時措置後 | 臨時措置前 |
|-----------|--------|-------|-------|-------|
| 總監 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 次長 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| (次長) 連絡部長 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 官房長 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 局長 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 課長 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 主任官 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 判任官 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 嘱託(兼待) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 同員 | 1 | 1 | 1 | 1 |

臨時措置前後ニ於ル職員増減表

| 備 | 備 | 備 | 備 | 備 |
|---|---|---|---|---|
| 計 | 計 | 計 | 計 | 計 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

| 臨時措置に依リ設置 | 臨時措置に依リ設置 | 臨時措置に依リ設置 | 臨時措置に依リ設置 | 臨時措置に依リ設置 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

認許

(二) 昭和二十年年度民政會計豫算
昭和二十年年度民政會計豫算ハ現下戰局ニ即應シ當地域、
特殊性ニ鑑ミ作戰基地トシテ、整備重要國防資源ノ獲得、
主要食糧ノ増産及治安ノ維持其、他作戰遂行現地防衛ニ
直接関係ハル事項ニ重点ヲ置クト共ニ現地自活自戦力体
制ヲ緊急強化スルヲ方針トシテ左記ノ通豫算案ヲ編
成シ三月二十八日大層ニ提出消ナリ
尚豫算ノ算出基礎及積算ハ從來通り詳細ニ檢討セルモ事

| 區分 | 豫算額 | 支出額 | 差引額 |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 民政府 | 一、三三九、二八三 | 九、五八五、〇〇〇 | 一、七〇六、〇八三 |
| ホルネオ民政部 | 一、三二八、二〇七 | 四、九六六、〇〇〇 | 八、二八六、〇〇七 |
| セレバス民政部 | 一、一九六、一九〇 | 九、二四四、〇〇〇 | 二、七三一、九〇四 |
| 小スンダ民政部 | 五、六六六、一八四 | 一、四八九、〇〇〇 | 四、一七三、一八四 |
| 計 | 四、二二〇、八八八 | 七、五三一、〇〇〇 | 一、六八九、八八八 |

| | | | |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 小スンダ民政部 | 五、六六六、一八四 | 三、二四七、〇〇〇 | 二、四一九、一八四 |
| 計 | 四、二二〇、八八八 | 三、二二九、〇〇〇 | 一、〇九一、八八八 |

支出

| 區分 | 豫算額 | 收入額 | 差引額 |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 民政府 | 一、三三九、二八三 | 一、〇四九、五〇〇 | 七九七、〇八三 |
| ホルネオ民政部 | 一、三二八、二〇七 | 八、五七四、〇〇〇 | 四、七二〇、〇〇〇 |
| セレバス民政部 | 一、一九六、一九〇 | 八、九一三、〇〇〇 | 三、〇五五、八九〇 |
| 計 | 四、二二〇、八八八 | 一、〇九一、八八八 | 一、〇九一、八八八 |

收入

(一) 昭和十九年度民政會計豫算
昭和十九年度民政會計豫算ハ收入及支出額、
実績概算額ハ左ノ如シ(ホルネオ小スンダ民政部ハ連絡
不十分ナル爲上半期以降ノ実績不明ナリ)

(二) 昭和二十年年度民政會計豫算
昭和二十年年度民政會計豫算ハ現下戰局ニ即應シ當地域、
特殊性ニ鑑ミ作戰基地トシテ、整備重要國防資源ノ獲得、
主要食糧ノ増産及治安ノ維持其、他作戰遂行現地防衛ニ
直接関係ハル事項ニ重点ヲ置クト共ニ現地自活自戦力体
制ヲ緊急強化スルヲ方針トシテ左記ノ通豫算案ヲ編
成シ三月二十八日大層ニ提出消ナリ
尚豫算ノ算出基礎及積算ハ從來通り詳細ニ檢討セルモ事

| | |
|---|-------------------------------------------|
| 計 | 一、五〇三、 一四六、 一〇四、 二五、 八、 二、 |
|---|-------------------------------------------|

要
理

(六) 現戰局、推移に伴ひ、現地會計經理要領、現地召集次第増加シ會

上現地、南發ヨリ、臨時會計、上、方法ニツキ、考究、要ア
出カ、必要トスルモ、内地ヨリ、送金不能、及、臨時會計、運用
之カ、按收、並ニ、國營ニ付、艦隊、認許ヲ得、目下、準備中ナリ
茲ニ、國營化實施ニ付、艦隊、認許ヲ得、目下、準備中ナリ
一日、以降、各地、區別ニ、現地、自活上、必要ナル、一般事業、接收
圖ル、爲七月一日、附管下、海運事業ヲ、國營化スルト共ニ、七月
現戰局、推移に伴ひ、管下、各地域ノ、戰場態勢、急速整備ヲ

| 區分 | 入費概算額 |
|---------|--------|
| 民政府 | 二八、五八三 |
| ホルネオ民政部 | 一三、八七〇 |
| セレス民政部 | 一六、二一六 |
| 小スンダ民政部 | 九、〇五八 |
| スリサル研究所 | 七、五四四 |
| 計 | 七五、二七一 |

昭和二十年、後、臨時軍事費入費概算額ハ左記ノ通り

(四) 臨時軍事費入費概算

而シテ、目下、大臣ニ提呈中ノ、昭和二十年、後ニ於ケ、資金ハ
三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
小スンダ民政部三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、
臨時軍事費入費概算

| 區分 | 收入概算額 | 支出概算額 |
|---------|--------|--------|
| 民政府 | 一八、三三二 | 一八、三三二 |
| ホルネオ民政部 | 一六、一三八 | 一六、一三八 |
| セレス民政部 | 一四、八八六 | 一四、八八六 |
| 小スンダ民政部 | 六、二五三 | 六、二五三 |
| 計 | 五五、五九三 | 五五、五九三 |

務簡易ニ豫算計上、額ヲ十箇單位トセリ

計要員、不足著シキモノアルト各部隊廳一體化ニ依ル
時態勢整備並事務簡捷上セレベス地區ニ於テハ八月一日
ヲ期シ左記要領ニ依リ處理スベク目下考査中ナリ
イ、臨時軍會計ハ民政機關及軍關係全部ヲ經理部マカ
ル、民政會計ニ付テハ民政府主任出納官更ニ存置分任
出納官更ハセレベス民政部長ニ合併掌理スヘシ
ハ、右ノ會計要員ハ民政機關及軍關係ヨリ最少限ノ人員
ニ以テ編成掌理ス

第二

一、政務

（一）英印度民族獨立公約ニ伴フ措置
十九年九月七日第八十五議會ニ於ケル首相、東印度民族
獨立公約ニ伴ヒ中東及艦隊ノ意圖ヲ汲ミ取敢ヘズ左ノ總
旨、行政措置要領ヲ定メタリ
イ、從來ハ諸政策並ニ諸制度ハ別段ノ指示ナキ限り變更
セザルコト
ロ、民意ヲ昂揚スベキ諸活動ニ関シテハ皇國指導ノ下ニ
現戰爭完遂ノタメ郷土戰力増強ニ挺身スル如ク積極的
ニ之ヲ善導スルコト
ハ、從來ノ民族主義運動等ニシテ徒ニ事態ヲ混亂ニ陷レ
テ戰力低下ヲ招來スル虞アルモノニ付テハ理由ノ如何
ヲ問ハズ之ヲ抑制スルコト
ニ、華僑ノ取扱方ニ付テハ現狀通トスルコト
ホ、將來ハ之ノ觸レザルベキ獨立ノ形態、範圍及時期ニ関シテ
ハ之ニ獨立ノ公約ニ伴フ輿論指導、文教指導ニ関シ所要
次、指示ヲ與フルト共ニハ駐地區ニ於テ使用セザレゾ、ア

ルが使用ヲ差止ルナリ旗及歌ハ當時ノ實情ニ鑑ミ取敢ヘズ
強立公約當時ニ於ケル海軍地區ノ民衆ハ民族独立ニ関シ
次當地區ニ影響ヲ及ボスニ到レル後爪哇ニ於ケル諸施策逐
封鎖の現存ニ於テモ尚獨立ニ對スル強キ要望ヲ感ゼシ
不燃レ共ニ要求スルモノアリ之レガ爲メ少數ト雖モ民族
指導層ヲ強化シテ要求スルモノアリ之レガ爲メ少數ト雖モ民族
列ニ卷カセシムルハ得策ニ認ムルヲ以テ未ダ政治情勢ノ
熟セザルニナリ即チ獨立ノ公約ヲ具體的展開ニ突入
イ年二月州會、市會、政治黨典ヲ擴大スルト共ニ青
人年四月ニ社會團體、宗教、啓蒙宣傳ノ部面ニ於テ
民族及民族歌ノ使用ヲ許容スルヲ期シコイन्दネシア民
及州知事廳ニ原任民衆典制度ヲ設ケ更ニ指導的人材ヲ

養成スル建國棟成院ヲ創立スルコトニセリ
尚同日ヲ期シ省長、待過改善ヲ圖ルト共ニ原住民ノ經
濟活動ヲ旺盛ニシテシノ獨立ノ基礎ヲ確立ニ寄與
セシムルヲ爲メ原任民衆保護獎勵規則ヲ發布セリ
本年五月ニハ市長ニ特別任用スルノ途ヲ拓キ更ニ指導
縣監督官又ハ市長ニ特別任用スルノ途ヲ拓キ更ニ指導
者層ノ同志的結集團體トシテ建國同志會ヲ設立ヲ認シ
タリ尚原任民衆教育令ヲ發布スルト共ニ之ト相前後シ
テ原住民ノ向上ニ資セシメタリ
ハ以上イコハニ民族詳細ハ各該當項目参照
ニ天長節ニ際シ民族歌許容ノ式典ニ際シ民族
指導層ヲスカルノハ一行マカソナルヲ訪問更ニ其後
グシ地處訪問ノコトアリ各地民衆ヲ啓蒙鼓吹スルニ
著效ヲ收メタリ
今後ニ於ケル獨立ニ関スル施策ハ艦隊長官ノ承認ヲ得テ
左記ノ如キ展開方針ヲ決定シ以テ情勢ノ變化ニ伴フ獨立
措置ノ急進發展ニ備ヘ遺憾ナキヲ期シ居レリ

(三) 務ニ參與セシメ以テ原住民ノ朝野ニ於ケル枝幹ヲ簡拔シ
任民ノ政治ノ經濟ノ文化各般ノ良俗習慣ヲ如實ニ行政面
ニ反映セシムルコトニ着々實效ヲ著ゲシムアリ
原住民職制度ハ十九年二月原住民政治參與ノ一翼トシ
テ原住民職員暫定任用令並ニ原住民職員暫定給與令ノ形
ヲ以テ本年二月公布シ同年四月一日之ヲ施行セリ
更ニ本年二月暫定任用令ヲ以テシテハ任用スルコトヲ得
ザリシ人材ヲ登用シ民意ヲ昂揚セシムル為原住民職員暫
定特別任用令ヲ制定シ青年團、婦人會其ノ他在會團體ニ
關スル事務並ニ指導、宗教ニ關スル事務並ニ指導、啓發
宣傳ニ關スル事務並ニ實踐ニ從事スル職責ノ特別任用ノ
途ヲ拓キタリ
更ニ本年五月二十七日府令ヲ以テ原住民ヲ縣、分縣監理
官及市長ニ特別任用スルノ道ヲ開キ原住民ニ名實共ニ貢
任スル地位ヲ與ヘ以テ民意ヲ收攬確據シツ、自治自戰態
勢ノ確立ヲ期シタリ而シテ原住民ヲ任用スベキ縣、分
縣、市ノ選定及具體的人選ニ付テハ防衛及所在部隊、各
廳、市ノ關係等ヨリ最モ慎重ヲ要スルトコロ現在迄南部

政 12

(四) セレベスレニ於テ「マカツサル」市長、コシンジャイル
及「パレ」パレニ於テ「パレ」市長、コシンジャイル
モンゴンドウレ及「パレ」市長、コシンジャイル
クニ州ニ於テ「パレ」市長、コシンジャイル
民衆指導力結集團體
獨立公約ニ關聯スル諸施策ニヨリ東印度民族間ニ齟齬ト
シテ盛上リツ、アル獨立ニ對スル民族均熱意ヲ結集シ之
ヲ戰爭完遂ト建國達成ノ方向ニ強力ニ推進セシムルヲ要
アルヲ以テ當府管下各民政部、州知事廳所管區域ヲ以テ
建國同志會ヲ組織シ、各階層ノ指導者ヲ糾合シ指導者
ヲ通ジテ民族意識ヲ昂揚シ以テ民族トシテノ最高目的ヲ
建國ニ正導センカ与本年五月之ガ設立要綱ヲ制定公布
セリ
而シテ此レガ組織ニ際シテハ鉅ク遠東印度民族ヲ主体ト
スルモノトイフドネシア、ノ資質ノ現狀ト軍政機關トヲ鑑
接ナル關係ヲ要スルニ鑑ミ内面指導ノ要アルヲ以テ「イ
ンドネシア」ノ心理ヲ理解シ且人格節ニ衆望ヲ擔ヒ得ル
共感熱意ヲ有スル少數邦人ヲ参加セシム此ノ任ニ當ラ
本組織ニ對スル指導方針ハ

口 軍政ト建國ノ本質的一体不可分關係ノ徹底周知
 得 實踐ヲ實行セシムル爲メ機關ヲシタルコト
 ハ 各階層ノ指導者ヲシテ渾然一体最終目的達成ニ至ラ
 シタルコト
 へ 指導ニ関シテハ積極的ニ行フモ無用ノ干渉ニ亘ラザ
 ルコト
 ト 其ノ大綱ヲ決定セリ
 本組織ハ各民政各部、各州知事廳ニ於テ目下組織方準備中
 ナルモコレヲセバスレバ民政各部ニ於テハ六月二十九日ヲ期シ
 設立準備委員會開催ノ上決定充足ノ予定ナリ
 宗教指導
 管内原住民ノ生活ハ宗教的色彩甚ク宗教對策ニシテ
 宜シキヲ得バ民衆ハ獲得ニ資スルコト大ナルモ、一步誤
 ランカ民衆ハ離反スルノ虞アルミナラズ將來ニ永ク禍
 根ヲ残スベキヲ以テ多少不滿ノ點アリトモ公安ノ害無キ

政 13

限リ急激ナル改革、彈壓ヲ進ケ不知不識ニ關シ日本各地
 ナル如ク指導スルノ方針ヲ執リツ、アリ
 原住民宗教中大部分ヲ台ハルハ同教ニシテ現在ハ名ヲ以
 テ之ガ指導ニ當リツ、アリ
 又原住民知識層ニハ新教又ハ舊教ノ信奉者多數ヲ占メ之
 ガ指導モ忽ニ之ヲ得ズ新教關係日本原住民指導者ハ現在九割
 以上ノ如ク日本原住民指導者ハ現在七割ヲ占メ之
 當地域ノ宗教指導ニハ到底不十分タルヲ免レズ之ガ爲メ
 本指導者ノ配置ハ適切ニテ活用スルヲ共ニ原住民ノ宗教ニ
 心ヲ配シ遺憾ヲキラ期シツ、アリ
 萬一其ノ指導ハ人口數ハ南方各地域ニ比シテ其ノ數納ニ
 於テ其ノ指導ハ流通經濟ニ於ケル對策ハ忽ニ之ヲ得ズ戰況並
 ニ統制強化セテ其ノ活動今日其ノ活動ハ停滯シ食物資缺乏
 ニ在ルヲ以テ其ノ活動比較的重要ナラザル部面例ハバ

(一) 獨立公約ニ伴フ諸施策展開ノ反響
 客年九月七期ニ小磯聲明ニ基キ本年天長節及海軍記念日
 要施策ハ各方面ニ多クハ反響ヲ呼ビ民族歌詩共其ハ也。重
 運動者等ニ對シテハ環トモ言フ。建國同志會ハ結成ニ當
 更ニハ指導者層ノ積極的熱意見ルベキモノアリ。今後独
 リテハ關スル諸施策ノ展開及之ガ指導ノ如何ハ民ニ把持
 イテハ治安上極メテ重要ナル問題ニシテ之ガ推移ニ関シ
 テハ萬全ノ觀察ニ努メテモ、
 (二) 最近ノ戰局ハ正ニ日本ノ危機ヲ感ゼシムルモノアリ。親
 蘭分子ハ斯ル現狀ヲ抗日武裝蜂起又ハ後方攪乱ノ反日
 陰謀ニ作ノ好機ナリトシ集團的ニ斯種ニ作ヲ計畫スルモ
 漸ク多クハ小ハスンガレ民政部管内ニロニホクケルニ於
 ケル民心攪乱事件、
 (三) 糧供給事件等相當數ヲ算シ何レモ之ヲ檢査シ得タルモ今
 後新種事件ノ續出ハ當然ニ予期セザルベカラザル實情
 ニアルヲ以テ之ガ觀察内偵ニハ特段ノ努力ヲ致シ居レリ

(四) 特務司法警察官制度ノ運用
 軍罰令違反事件並ニ邦人ノ不法行為ニ起因スル戰爭遂行
 妨害トナルベキ各種犯罪ヲ速ニ檢査取締スルノ目的ノ下
 四月二十日附ヲ以テ繼隊法令ニ依リ特務司法警察官規
 則制定セラレ警務事務擔當者ガ特務司法警察官ニ指定セ
 ラレタルニ付之ガ運用ニハ深甚ナル考慮ヲ拂ヒ所期ノ效
 果ヲ擧グベキ努力中ナリ
 (五) 食糧、衣料、生活必需品ノ不足、物價騰貴ニ依
 ル大衆ノ生活苦ハ加速度約ニ重加セラレツ、
 本邦戰ノ推移ハ更ニ之ヲ深刻ナラシムルコト當然予期セ
 ザルベカラズ。之ニ起因スル民心ノ悪化ハ所謂暴動、騷
 擾等ノ犯罪勃發ハ必至ノ形勢ニ在ルヲ以テ前記新警察制
 度ト相俟ツテ組織並ニ人的配備ノ完備ヲ圖リ其ノ動向ヲ
 常ニ監視シ之ガ未然檢査並ニ擴大防止ニ遺憾ナキヲ期シ
 (六) 防空對策
 敵反攻ノ熾烈化スルニ隨ヒ各地區共空襲頻ニ激化シ各
 地相當ノ被害ヲ生ジタリ。重要都市ニ於ケル應急陸戰隊

陣中新聞、形式ヲ執リ、馬季紙ハ得單ノ形ニ移行シ、
 ツアグリ、ボルネオニテ発行ハ去ル三月、新聞社、
 リック、パパン、ニテカッセル、テ、ハ、ス、マ、リ、
 ニ、新、聞、社、一、部、ヲ、開、同、地、ニ、於、テ、館、ク、返、業、務、ヲ、
 日、新、聞、社、一、部、ヲ、開、同、地、ニ、於、テ、館、ク、返、業、務、ヲ、
 及、一、部、ヲ、開、同、地、ニ、於、テ、館、ク、返、業、務、ヲ、
 放、送、局、ハ、解、消、シ、各、民、政、部、管、下、ニ、移、讓、セ、ル、モ、全、管、下、
 中、央、放、送、局、ハ、解、消、シ、各、民、政、部、管、下、ニ、移、讓、セ、ル、モ、全、管、下、
 ノ、受、信、器、數、ハ、僅、ニ、約、七、〇、箇、ア、ル、以、テ、ラ、ヂ、オ、塔、
 ノ、増、設、ハ、疎、開、地、ヘ、ノ、移、轉、等、ヲ、實、施、シ、相、當、ノ、效、果、ヲ、得、
 ツ、ア、リ、テ、ハ、日、本、映、画、社、ノ、撮、影、所、ノ、現、像、所、ノ、談、話、
 映、画、ニ、関、シ、テ、ハ、日、本、映、画、社、ノ、撮、影、所、ノ、現、像、所、ノ、談、話、
 止、リ、テ、ハ、日、本、映、画、社、ノ、撮、影、所、ノ、現、像、所、ノ、談、話、
 シ、テ、塊、地、ニ、ニ、ス、映、画、ノ、南、方、報、道、ハ、撮、影、ヲ、從、事、シ、居、
 又、映、画、配、給、社、ノ、機、能、ハ、各、地、映、画、館、ノ、戰、災、ニ、鑑、ミ、國、營、ニ、

政 二 八

移、管、ヲ、實、施、中、ナリ、而、シ、テ、本、年、頭、初、以、來、新、映、画、ノ、移、入、
 ハ、極、メ、テ、困、難、ナリ、狀、況、ナリ、而、シ、テ、本、年、頭、初、以、來、新、映、画、ノ、移、入、
 音、樂、ハ、旅、ル、宣、傳、ハ、昨、年、一、月、着、任、結、成、ヲ、見、タ、ル、民、政、府、音、
 樂、隊、ハ、多、大、ノ、效、果、ヲ、擧、ゲ、ツ、ア、リ、シ、モ、情、勢、ニ、依、リ、去、ル、
 六、月、解、散、シ、各、民、政、部、ニ、分、属、既、員、シ、目、下、當、府、ニ、於、テ、ハ、作、
 曲、ニ、カ、ラ、注、目、ナリ、
 檢、閲、
 量、ニ、制、定、セ、ル、新、聞、通、信、映、画、等、ニ、依、ル、報、道、檢、閲、要、
 領、ニ、依、リ、實、施、シ、ア、リ、檢、閲、方、針、ハ、削、除、ヲ、旨、ト、ス、ル、消、
 極、ナル、態、度、ヲ、採、ル、積、極、的、ニ、ソ、ノ、内、容、ヲ、指、導、シ、萎、縮、沈、滞、
 セ、ザ、ル、ヤ、ウ、努、ム、ル、ト、共、ニ、防、諜、ニ、関、シ、テ、ハ、最、重、ニ、考、慮、シ、
 ツ、ア、リ、
 二、今、層、地、方、行、政、廳、内、ニ、弘、報、司、ハ、原、住、民、職、員、ノ、制、制、定、セ、
 ラ、レ、タル、ニ、依、リ、コ、タ、ブ、ロ、イ、ド、レ、半、截、版、ニ、テ、馬、文、リ、
 レ、ット、コ、弘、報、シ、ラ、ハ、通、達、ニ、編、輯、發、行、シ、居、レ、リ、内、容、ハ、時、局、
 解、説、知、名、有、識、者、ノ、演、説、内、容、記、事、等、ナリ、

第三

司法及土地制度

裁制食糧新機構 整府
 從來裁制檢察機構ヲ昭和十九年五月改正ノ當民政府
 下新行政機構ト一致セシムルト共ニ其ノ國情ニ依リ
 圖リ以テ戰局ノ境段階ニ即應シテ治安確保第一ノ旨ヲ達
 成ヲ期スバク案画シタル改正暫定民政裁判令及閣僚諸法
 令ヲ昭和十九年六月一日附公布實施シテ銳意新機構ノ整
 備ニ從事シ之ヲ完成シタリ
 土地制度
 指定產業ノ追加指定
 管下ニ於ケル曰下ノ食糧事情ハ相當緊迫ノ虞ヲ加ヘツ、
 アリ之ガ打開ノ爲増産ノ要切ナルモノアルニ鑑ミ主要食
 糧農産物、蔬菜類等ノ増産ニ資スル爲之等農業ニ從事セ
 ントスル者又ハ農地ヲ設置セントスル者ニ對シ土地ニ関
 スル權利ノ取得權ヲ享有セシムル爲暫定土地條例ニ基ク
 指定產業ノ種類ニ新ニ農業ハ主要食糧農産物、蔬菜類又
 ハ麻類ノ生産ヲ目的トスルモノニ限ルヲ昭和二十年ニ
 月一日附民政府告示第一號ヲ以テ追加指定セラル

==

(二)
暫定土地條例第四條ヲ「ポンチアナク」州ニ施行
原住民社會ノ經濟秩序維持並ニ保護ノ爲昭和十九年十月
一日附民政府令第四十八號ヲ以テ暫定土地條例第四條ヲ
「ポルネオ」民政部「ポンチアナク」州ニ施行シタリ

第二章 經濟

第一 當府管内經濟開發ハ戰局ノ推移ニ鑑ミ現地自治ヲ強化スル
 一 當府管内重要物資ノ對日供給ヲ確保スルコトヲ目標トシ資材
 ト共ニ重要物資ノ對日供給ヲ確保スルコトヲ目標トシ資材
 防務特ニ輸送等ノ隘路ヲ打崩シ月給達成ニ努メ未リタル處
 本年ニ入リテヨリ對内地商輸送ハ強ト不能トナリ且當地
 已ノ戰場態勢ノ急遽變化ヲ要スルコトナリタリ且當地
 テ重要物資ノ對日供給ニ付テハ中央ヨリノ指示ニ基キニ
 ケル製鍊事業ノ促進及對日輸送可能ナル白金水銀等
 ダイヤモントノ南發ソミヲ實施シ右以外ノ事業ハ學テ自給
 自給力ノ強化ニ集中シルツアリ即チ食糧自給體制ノ確立
 二 戰地ハ主要食糧ノ増産蒐荷ヲ強行シ本年度上半期ニ於
 テ局地的自給自足體制ヲ整備セントシツアリセム
 工場伸張工場發電所造船修理工場自動車修理工場
 紡績工場油脂工場ゴロ工場等々重要施設ニ付テハ空襲被
 害アリタルモノアルモ一部ヲ除キ略々建設ノ過程ヲ脱シ輸
 送難ニ悩ミツモ其ノ生産力ヲ維持強化スベク努力シツ
 アリ尚企業整備施設休養勞務ノ轉用ヲ強行シ之ガ全幅
 的活用ヲ画ル可ク計畫中ナリ他面東區度独立施策トノ全肝

モアリ 現地自治ノ強化ノ爲現住民經濟ノ促進育成ニ努メツ
二戰局ノ緊迫化ニ伴七當務管下諸事業ノ建設及運営ニ関シテ
ハ勞務陸海交通機關資材設備等ノ逼迫狀况ト觀ミ合セ大要
一左ノ通措置ヲ執リ事業ノ重點的建設及運営ヲ圖リアリ
一重要事業場等非常措置令（昭一九、一〇、八）民政府令
一第四九號ノ及因施行規則（昭一九、一〇、八）民政府令
一第五〇號ノ
一重點主義ノ採用ニ依リ重要事業ノ急速建設及運営ノ急速
一効率發揮ヲ目的トシ比較的輕重ト事業ノ施設、設備
一資材及勞務ヲ重要事業ニ轉用及事業ノ一時休止ヲ命令得
ルコトトセルニ中央指令並及補償問題ニハ触ル、コト無
ク現地限リノ非常措置ト爲セリ
一其ノ後之ヲ運用シ急進ニ進クル及若干月三十一日附
一ヲ以テ重要事業ノ促進ト事業ノ整理ニ關シ詳細ナル指示
ヲ左レタリ
一事業查察
一（二）
一若干月ノ參謀長申進ニ基キ事業查察規定（昭一九、八
一、一）民政府令第四三號ノヲ制定シ第一回查察ハ「ニツ

(三) 事業監督官制度
前記參謀長申進ニ基キ事業監督官規程（昭一九、六、三）
〇、氏政存令第六十六號）ヲ公布、氏政部長官ヲシテ管下重要事業ニ事業監督官ヲ常駐セシメ、重要事業ノ急速建設及煙管ニ提外セシムルコトトセリ
現在監督官ヲ派遣シアル事業ハ、フボマラニ於ケル、フニ

第二

(一) 邦人事業ノ接収
 意地ニ戦場化ノ切迫ニ伴フ緊急措置トシテ現地邦人事業ヲ各民政府ニ於テ接収シ以テ事業者ヲシテ戦災ヲ考慮スルニトナリ生産ニ緊急ヒシメ且召集ニ依リ減少セル邦人其ノ他資材勞務等ノ重要點ノ配置變等ノ措置ヲ容易ナラシメ我カ増強ラ圖ル可ク計畫中ニシテ各方面ト連絡シ七月一ヨ以降實施ノ予定ナリ

(二) 邦人事業ノ接収
 邦人事業ノ接収ニ付テハ其ノ甚荷配給等ノ月消且強化ニ會計經理ヲ容易ナラシムル爲新ニ民政府ト表裏一体ヲナス黨團的法人ヲ設置シ之ニ當リシムル可ク計畫中ナリ

(三) 邦人事業ノ接収
 現任民政府ニ於テ事業ノ保護育成ヲサスベク其ノ第一局手トシテ民政府令第一九號現任民事業保護獎勵規則ヲ制定發布シ現地戦力増強ノ一助ヲシムルト共ニ東印度獨立ノ爲ノ現任民ノ経済的基盤ノ造成ヲナサシムルモノトス

(四) 邦人事業ノ接収
 邦人事業ノ接収ニ付テハ其ノ甚荷配給等ノ月消且強化ニ會計經理ヲ容易ナラシムル爲新ニ民政府ト表裏一体ヲナス黨團的法人ヲ設置シ之ニ當リシムル可ク計畫中ナリ

(五) 邦人事業ノ接収
 現任民政府ニ於テ事業ノ保護育成ヲサスベク其ノ第一局手トシテ民政府令第一九號現任民事業保護獎勵規則ヲ制定發布シ現地戦力増強ノ一助ヲシムルト共ニ東印度獨立ノ爲ノ現任民ノ経済的基盤ノ造成ヲナサシムルモノトス

ボマラニ於ケル現地製鍊ハ屢次ノ爆撃ノ左標葉南端延セルモ四月十七日際鐘防一火入ヲ見タルニ機械運轉停止セルヲ補給付カス五月十九日一時運轉停止セリ依テ左ニ集積スベク努メソツアリ

(一) 邦人事業ノ接収
 邦人事業ノ接収ニ付テハ其ノ甚荷配給等ノ月消且強化ニ會計經理ヲ容易ナラシムル爲新ニ民政府ト表裏一体ヲナス黨團的法人ヲ設置シ之ニ當リシムル可ク計畫中ナリ

(二) 邦人事業ノ接収
 現任民政府ニ於テ事業ノ保護育成ヲサスベク其ノ第一局手トシテ民政府令第一九號現任民事業保護獎勵規則ヲ制定發布シ現地戦力増強ノ一助ヲシムルト共ニ東印度獨立ノ爲ノ現任民ノ経済的基盤ノ造成ヲナサシムルモノトス

(三) 邦人事業ノ接収
 邦人事業ノ接収ニ付テハ其ノ甚荷配給等ノ月消且強化ニ會計經理ヲ容易ナラシムル爲新ニ民政府ト表裏一体ヲナス黨團的法人ヲ設置シ之ニ當リシムル可ク計畫中ナリ

(四) 邦人事業ノ接収
 現任民政府ニ於テ事業ノ保護育成ヲサスベク其ノ第一局手トシテ民政府令第一九號現任民事業保護獎勵規則ヲ制定發布シ現地戦力増強ノ一助ヲシムルト共ニ東印度獨立ノ爲ノ現任民ノ経済的基盤ノ造成ヲナサシムルモノトス

(五) 邦人事業ノ接収
 邦人事業ノ接収ニ付テハ其ノ甚荷配給等ノ月消且強化ニ會計經理ヲ容易ナラシムル爲新ニ民政府ト表裏一体ヲナス黨團的法人ヲ設置シ之ニ當リシムル可ク計畫中ナリ

(四)

ニ天童岳ヲ置キツツアリ
口 大日本油脂ハシヤバ地区ヨリホルネオパマンカット
ニ探油機ニ各ヲ移設据付中ナリ
イ 精紡工場
バニカシネ工場 大日本紡績株式会社
ビシラシ工場 鏡湖工業株式会社
パンカシネ工場 昨年九月精紡機一。台(四、四。〇。鐘)
振付ヲ完了シ同年十月ヨリ操業ヲ開始セルモ今年十一
月迄被覆ニヨリ操業停止セリ
尚紡績機械ハ破壊ヲ免レタルヲ以テ之ヲ補修シ焼失セ
ル一部部品ハ現地農作又ハ大日本紡績所持品ト相互融
通ヲ圖リ現在一七六。鐘運轉中ナリ
尚東洋紡績メナト工場ハシヤバ地区ニ移設セラレタリ
ガラ紡工場
大日本紡績スナガミナサ工場(南セレベス)
東洋綿花スナガミナサ工場(南ホルネス)
三井物産林産スナガミナサ工場(ハリ島)
三菱商事スナガミナサ工場(ハリ島)

(五)

平田漁網 ギヤナル工場(ハリ島)
スナガミナサ工場 昨年四月カラ紡機一。台(五。〇。鐘)
振付終了レ五月ヨリ一部運轉九月ヨリ三五。〇。鐘運轉
中ニシテ他ノ五。〇。鐘バロタンボネニ疎用据付中ナリ
スナガミナサ工場 昨年七月カラ紡機一。台(五。〇。鐘)
据付就運轉開始シ今年十二月六名(三。〇。〇。鐘)据付
完了運轉中ナリ
デンベツサル工場(カラ紡機二。台。〇。〇。鐘)及ヤ
ニアル工場(カラ紡機一。台六。〇。〇。鐘)ハ昔ニ昨年
十月ヨリ運轉中ナリ
昭和ゴム工場 製品工場
ゴム工場 昨年九月建設ヲ了セルモ機械ノ海没セルモ
ノモアリ尚又据付未了ノ機械設備アリ莫分ナル生産ヲナ
シ居ラサルモ之カ整備ヲ努メ生産能率ノ向上ヲ圖リツツ
アリ 尚各番生産ヲモニツツアリ
昨年七月ヨリ十二月迄ノ生産実績ハ自轉車用タイヤ九。一
ハ本ナリ
(六) 日本製鉄株式会社製鉄事業所
製鉄事業ニ諸般ノ事情ニ依リ当初計画ヲ縮スルコト

テ充足シメツツナリ。皮革工場ニ肉ニテハセシベス、
小スンダ西地ニメテ台場高産ヲシテ荳荷原皮ノ一部
ヲ鞣革ニ居シリ
ニ 水産
管内漁業ニ関シテハ當初ヨリ篤約ナル邦人漁業ヲ主
眼トシ其ノ増産ヲ期シタルモ其ノ後敵機散落ノ襲撃ニ
依ツテ漁船加工場製氷工場共ニ他資材ノ滅失大ニシテ
甚ノ實績ハ初期計画ニ遠ノ及バザル現状ナリ
セレベス地ニアリテハ製氷資材等一部資材ノ不足ヲ
克服シ邦人漁業ノ担當者社々カササル水産ノ振興ヲ
計ルト共ニ之ニ配スルニ附近島嶼原住民漁業ノ指導ヲ
充テ以テテテ管下需要ヲ補給シツツアリ
ボルネオ地ニアリテハ担當者社（ボルネオ水産）ノ
漁船機械未着等ノ原因ニ依リ事業不振ノ点アリ其ノ
後第八建設部解消ニ伴ヒ東北振興漁業ノ進歩ヲ豫定セ
ルモ状況変化ニヨリ未ダ振興事業ニ到ラズ之ヲ對策トシ原
住民ノ内水漁業ヲ振興ニ勉メツツアリ
小スンダ地ニアリテハ敵機ノ危険特ニ大ニシテ担當
者社（日本共産）ノ振興意ニ任セザルモ未ダ振興事業

(二)
地ニアリテ沿岸居民漁業ノ隆發振興ニ依リ荳荷原皮
ノ実ヲ擧ゲ軍需ニ充當シツツアリ
塩生産ニ関シテハ海軍管下地ニ的自給ヲ計ルモ日常塩
ニ不足アリタル地ニ相當現存セザル現状ナリ之ハ主ト
シテ輸送ノ困難ニ依リモノニシテ南セシベス管内及ボル
ハ三五〇〇〇リ騰ニ上リ目下之ニ付セシベス管内及ボル
ボルネオ地ニ其ノ他ノ輸送ヲ極力回リ居シリ
棉花等纖維作物
棉花

昭和十九年度（増産第一等計画）生産棉花ノ牧實實績
ハ綿綿ニ一六〇。担（撈獲面積ニ四一八九畝）ナリ
コレニ北部セシベスニ於ケル指定収買高ニ九〇〇。担
（撈獲面積ニ五四九〇畝）ヲ加フルハ六〇〇。担ニ
達ス北部セシベスニ關シテハ状況不明ナルモ生産棉花
積込ハ困難ノ見セザルモ之ノ振興計畫トシテハ北部セ
シベスニ在リテハ其ノ振興ニハ海軍軍需部經理部振興
費ニ一〇〇。担（撈獲面積ニ一六〇。担）ニ付海軍區域内消
費原料用ニ在リテハ其ノ振興費陸軍地ニ向入五〇〇。担トシ内
地運送上海迄其ノ他向業ハ輸送面係ヨリ考慮セザル

(四)

物資團ニ繼承セシムルニトセリ
林産

イ 木材
軍事施設構築等用、木造船建造用、及重要産業建設用等木材ノ需要旺盛ニシテ特ニ木造船用材ハ造船ノ大計画ノ實施ニ依リ大量需要アリ之カ計畫量確保ノ爲管下ホル不才十五社並レベスニ社ノ担当企業者選定ハスナリ地及ハ民政部直轄ニヨリ最大能力ヲ擧ゲ用度供出セシメタリ昭和十九年度木材供出量ノ用途別目標量ハ左ノ如シ
(單位ニ方米)

軍需 三五一、六〇〇
木造船用 四二四、四〇〇
民需 一三四、〇〇〇
爪哇陸軍供給 一二、〇〇〇

セレス五〇、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇
セレス一五、〇〇〇

計 九二二、〇〇〇
依供給計画ハ昭和十九年度初頭ニ於ケル資材不努力ノ點ヨリ見タル最高限度ノ計画ナリ
尚生産実績ヲ見ルニ昭和十八年度ノ目標四九三、〇〇〇ニ對スル一割増ノ好成績ニ對シ昭和十九年度

実績ハ三六六、〇〇〇方米下半期推定量三四五、〇〇〇方米合計七一、〇〇〇方米トシテ、実績ナルニ管下食糧自給対策ニ依リ重要施設等ニ依リ労働不足及輸送力ノ逼迫ヲ考慮スルハ相當ノ成績ト言フヲ得ハシ二十年度ニ於テハ十九年ノ実績ヲ基準トシ需給計画ヲ樹立セルモ木材ノ搬出輸送状況ヲ勘案シ伐採ヲ抑制シ甚シ人等ヲ食糧増産及搬出ノ強化ニ轉用シツツアリ
マシカローノ樹皮、コーバル、タマールノ葱荷ハ順調ニシテ前者ハ繫刺トシテ後者ハ塗料等トシテ現地軍民需ノ充足ニ資シツアルモ輸送關係ヨリタンニン材料ノ如キハ葱荷抑制ノ実情ナリ、又カツチ製造事業モセレズ地区ハ原料輸送ノ困難ヨリ製造設備ヲ中止シ一方ボルネオ地方地ニシテマイ、ホンチ、アナリニ於テ強化三年間二千屯ノ製造能力ヲ目標ニ邁進ス

第三 物資交流
 一、本府管下ニ於ケル經濟開發ヲ遂行セシガ爲ニハ南方各地ト
 内地ヨリ物資ヲ益々供給シラシムル要アリ戰局ノ推移ニ伴ヒ
 從來内地ニ期待スル物資ヲモシヤワ地區其ノ他ヨリ期待セ
 サルヲ得サル現狀ナリ
 本年五月スラハヤ三民政府連絡部ヲ設置シ強力ニ物資交流
 ヲ實施スルヲ下ナレリ
 従テ實施シテ來ル陸海軍協定ニ依ルシヤハ地區トノ交換物
 資ノ主ナルモノハ當地ヨリ名炭コアラ是木炭塩干魚生牛
 豚鉄鋼製品等ナルモノモ陸海輸送其ノ他ノ事情ヨリ充分ナル
 實績ヲ收メ得タ

二、其ノ他地區トノ交流
 對上海交通ハ昭和十八年七月以來其ノ実績見ルベキモノアリ
 タルモ其ノ後船舶ノ減少海上輸送ノ困難等ノ爲事實上中

止セリ
 今後ハ恭佛印昭南其ノ他トノ交流ニ重莫ヲ置キ特ニ昭南ト
 ホンケヤコトノ交流ヲ活發ナランムベク研究中ナリ
 第四 勞務
 當方面ハ人口密度地ニ民度ノ狀況等ヨリ近代化ナル開發建
 設ニ所要ノ勞働力ヲ供給スルハ例ヲ除キ之ヲ地元ニ於テ提
 供スルコトハ甚シク困難ナル事情ニアリ特ニ當方面ノ開發
 建設ノ多クハ土木建築ノ事柄ニテハ技術的設備ヲ脱シ工場運搬的
 ナル本格的段階ニ進ムニ從ヒ技術的訓練的勞務ヲ必要トス
 ルニ至レルモ之ガ補充ハ殆ント不可能ニシテ智能度著シク
 低カナル原住民ニ對シ初歩的ナル養成訓練ヨリ開始セザル
 バカラサル第ニ對シテハ海軍現地當局間ニ勞務供給ニ關スル協定
 昭和十八年七月陸海軍現地當局間ニ勞務供給ニ關スル協定
 成立シ當方面ノ一般普通勞務ヲ補給ハコレヲ以テ陸海軍現地
 當局ヨリトシ昭南十八年度中ニ民間企業用勞務者約二萬
 八千人ヲ移入シ南部セルバニシテ及バンジエルマンシニ
 ニ天々約八千人ハリツクバニシテ及バンジエルマンシニ
 千人配置セリ昭和十九年度ノ移入計畫數ハ現地協定ニ依レ

バ概テ當方面民需用トシテハ二萬人程度ニシテ夫々企業ノ
 重要度ニ應ジ重點的ニコレガ移入充足ヲ計ルコトトシ管下
 海軍勞務中ハ協會ヲシテ極力之ガ實施ニ當ラシメタルトコ
 口其ノ實績ハ昭和十九年十二月末ニ於テ南部セルバニシテ及
 五〇四一バリツクハバンジエルマンシニシテ及バンジエル
 三二〇三タラカン地區ニ五一一其ノ他五五八合計一三四七九
 ニシテ概テ年度内一八〇〇〇ニ達スバク計畫ニ對シテ九〇％程
 度ノ見込ナリ
 然レドモ當方面ノ外々他外部ヨリ移入ヲ要スル民需用
 務ハ昭和十九年度當初ニ於テ七萬八千ト概算セラレ二萬人
 程度ノ勞務ヲ以テシテハ到底所要勞務ヲ充足スルニ足ラザ
 ルヲ以テ十九年七月ヨリ年度内一萬人ヲ目標トシ小スンダ
 地區ヨリケンダリト地區バリツクハバンジエルマンシニ
 地區ニ移動セシムルコトトシタルモ其ノ實績ハ十二月末ニ
 於テ約五二三ニシテ輸送其ノ他ニ制約セラレ充テ分其ノ目
 標ヲ達成スルニ至ラズ尙勞務不足對策トシテ既移入ハ哇勞
 務者ノ家族二萬人程度ヲ招致ニシテ勞働力ノ増加ハ哇僑ノ
 移入大陸支那人勞務者ノ移入ヲモ計畫シタルモ諸種ノ障害
 ニヨリ實施スルニ至ラザリキ昭和二十年年度ノ要移入數ハ約

五萬弱ナルトコト過去ノ實績ニ徴シ所要全量ヲ獲得スルコ
ト至難ナルモノト認想セラル他面戰局ノ推移ニ伴ヒ企業整
備ノ實施等ニ依リ部分のハ過剩勞務者ヲ生ズルコトモア
リ輸送ノ減少セル折柄之が調整ハ相當困難ヲ伴フベシ
勞務ノ量不足ハ之ヲ質的向上ニ依リ補填スル要アルヲ認
メ遂次各工場事業場等ニ技能者ヲ養成ヲ勸奨スルト共ニ各
種ノ事情ヲ勘策シ凡味島内ニ於テ年間二〇〇名ノ技能工
養成ヲ計画シジャカルタ及バンドンニ於テ之が養成ヲ開始
セリ
勞務者ノ賃金ハ勞務不足ニ照應シ漸次昂騰ノ傾向ニアリテ
各民政部ニ於テ夫々勞務者賃金ノ統制令ヲ施行シコレが昂
騰抑制ニ苦慮シツツアルモ物價ノ一般の騰貴凡味地區ニ於
ケル賃金ノ昂騰ハ尤モ勞務者ノ移入條件ノ變更等ニ影響セラ
レコレが改訂ヲ必要トスル事情ニアリ
又食糧不足医療對策ノ不徹底勞働過重等種々ナル原因ニ依
リ勞務者ノ減耗甚シク一年ノ減耗率二〇%ニ及ブ地區ア
ル實情ニシテ之が徹底のナリ對策ヲ講ズル要アル實情ナリ
勞務給源ノ涸竭ハ益々勞務配置秩序整調ノ要緊切ナルモノ
アリ

又工場事業場等勞務者ノ大量ナル造成ニ依リ之等工場事業
場内ノ勞務管理ノ徹底ヲ計ル必要アルヲ以テ今般民政府令原任民
勤勞保護令ノ制定發布ヲ見タリ

第五

一 財務行政組織

前行政執行機構地方官廳組織ハ何モ原則トシテ差當リ從
前舊機構ヲ踏襲シ未タタル處民政ノ滲透シタル現在ニ於テ
監督ニ於テモ明確ニ決ク虞アルヲ以テ稅務局及地租局ハ
之ヲ各民部部長官ニ屬セシメ獨立行政官廳トシテ租人官
吏ヲ正式ニ局長ニ任命スルコトニ舊制度中複雜煩瑣ニ
爲ルモノヲ排除シ強力簡素ナル新機構ヲ樹立セシメン加
ヨリ實施シタリ。
次ニ舊稅關機構モ從來關稅消費稅系統ト一般港務系統ト
各獨立シ居リタル處見下ノ實情ニ應ジ海港事務ノ一元化
ヲ圖ル爲民部部長官ニ屬スル獨立行政官廳トシテ海港事
務局ヲ創設シ右ノ二系統ヲ統合スル共ニ邦人官吏ヲ正
式ニ局長ニ任命スルコトニ海港事務局規程ヲ制定シ同
シク昭和十九年六月一日ヨリ實施シタリ。而シテ國庫事
務系統ニ屬スル會計局出納局出納管理局ニ在リテハ各民

租三税率ノ適用等ニ関シ更ニ均衡小賦課徵收事務
簡便化ヲ期シ昭和十九年十二月夫夫一部改正ヲ行ヒ
更ニ流通税中印紙税ニ関シ資金ノ吸收並ニ課税手續ノ簡
素化ヲ目途トシ一部改正ヲ加ヘ昭和二十年六月一日ヨリ
施行セリ。關稅ニ付テハ新事態ニ應ジ再檢討ヲ遂ゲタル
上適當ナル措置ヲ採ルベク差當リ之ヲ賦課ヲ見合セ居
リ。舊關稅時代ニ在リテハ民政政府管轄正域ニ於ケル關稅
收入ハ政府收入ノ過半ヲ占メ居リシモノナレバ以テ關稅
賦課ノ停止ニ因リ現地財政ノ收入ハ著シキ影響ヲ蒙リ居
レリ。依リテ之ガ一部ノ補填ノ爲臨時軍事費特別會計ニ
依リ續出交易物資ニ對シ臨時貨物出稅ヲ課スルコトト
シニツケル。昭和十八年十一月一日ヨリ實施セリ。而シテ
其ノ後ノ數回ノ推移ニ伴ヒ戰時財政ヲ強化スル爲更ニ課
稅物件ト納稅義務者ヲ拡充スルノ要アリト認め新ニガ
ヤモント白金マンガンニツケルマツトラテックスニ對シ
昭和二十年一月ヨリ課徵方中央ニ上申中ナルモ未ダ課
無キ爲現地特別措置トシテ昭和二十年四月一日ヨリ暫
課徵スルコトトセリ。

尙現狀ニ於テハ本稅ハ賣上臨時軍事費ノ課會計ニ付
スル補助金ノ變付トモ見得ヘキモノナリ。
又ニ(專賣)ニ付テハ從來ハ同片及(均)ニ付專賣制度ヲ採用シ
居リタルモ稅方ノ行政施行以來各種ノ事情ニ因リ最近迄
專賣制度ハ事實上停止ノ狀況ニ在リタルヲ然レ共阿片ニ付
テハハ哇リノ同片ノ移入杜絶シタル現在ニ於テモ依然
トシテ相當數ノ密輸ニ依リ阿片吸食ハ行ハレツアルモ
ノト認メラルルヲ以テ舊任氏ニ對シテハ極力之ヲ抑制ス
ルニ要倫ニ對シテハ從來ノ販賣者ニ許可主義ニヨリ販賣ス
ル方針ノ下ニ昭和十九年二月暫定阿片煙膏專賣要綱ニ基
キ專賣制度ヲ實施シ阿片ノ密輸入ヲ取締ルト共ニ華僑其
ノ他一部ニ偏在スル購買力吸收ノ一助ヲラシメタリ。其
ノ他ノ專賣ニ付テハ尙目下研究中ナリ。
(三) 財産管理
民政政府管轄正域内ニ在ル財産中民政政府又ハ民政部ニ於テ
廳舍職員住宅等トシテ直接使用スルモノ及民間事業體
所有者ニ主場事業場又ハ住宅店舗等トシテ使用セシメ居ル
モノ少カラザル處昭和十八年四月南滿方面艦隊命令取
下現存民政政府又ハ民政部ノ使用又ハ管理スル財産目録

二 金融

(一) 金融機關

日蘭印時代の金融機關ハ敵性ヲ有シテ之ヲ清算スル
 附其通宜ノ措置ヲ講シタルハ必要ニ應ジ之ヲ再開育成ス
 ル等夫々金融機關トシテハ台灣銀行ハ南方開發金庫及日
 本銀行ハ中央金融機關トシテハ郵便貯蓄銀行ハ地方開發金庫
 本銀行ハ中央金融機關トシテハ郵便貯蓄銀行ハ地方開發金庫
 取極力夫々軍政當局指導ノ下ニ活動スルヲ示シシ
 不
 南方開發金庫
 南方開發金庫ハ資源ノ開發及利用ニ必要ナル資金ノ供
 給ヲ主トシテ外債業務ハ之ヲ爲メ南方開發金庫券發行ハ機能
 有テスル外債業務ハ之ヲ爲メ南方開發金庫券發行ハ機能
 行有テスル外債業務ハ之ヲ爲メ南方開發金庫券發行ハ機能
 十年三月末ニ於ケル融資金額ハ一億五千七百六十九萬
 臺灣銀行ニ對シテ融資金額ハ一億五千七百六十九萬
 同金庫ノ當地ニ於ケル融資金額ハ一億五千七百六十九萬
 行代理店トシテ國庫金ノ出納保管事務ヲ取扱ヒ居レル
 現在這國有ノ店舖職員有セズ兩者ノ業務ハ何レモ

行政機關總務課長加藤有造氏ハ「臺灣銀行ハ南方開發金庫券發行ハ機能
 一月間融資金額事務ヲ取極力現行規定ノ六倍額發行スルヲ
 作成スルヲ他融資金額事務ヲ明確ニシテ上米商社等々對シ
 臺灣銀行總務課長加藤有造氏ハ「臺灣銀行ハ南方開發金庫券發行ハ機能
 用也」トシテ融資金額タルモ地建物機械器具等無テハ則
 所用職員宿舍用ニ供セシメラルモ地建物等ニ付テハ原則
 トシテ使用料日徴收スル事トシテ目下銳意之カ事務處理
 六箇人トシテ充テラル

金ノ受人為替業務等ノ外、原住民信用機關ニ對スル小口貸付資金ノ融通ヲ業務トシ村落銀行ノ存スル地域ニ於テハ之カ育成發達ヲモ圖ラントスルモノニシテセレハスニ於テハ資本金百盾（金額拂込済）ヲ以テ十九年四月ヨリ一ホルホオニ於テハ資本金百盾（内第一回拂込三拾盾）ヲ以テ同年七月ヨリ又ハスシタリテハ資本金拾盾（全額拂込済）ヲ以テ同年十月ヨリ夫々業務ヲ開始シタリ。貯蓄増強ノ要愈々切ナル現下之等銀行ハ對原住民有力金融機關トシテ其ノ活動ハ特ニ預金吸收ノ面ニ於テ大イニ活躍シツツアリ。昭和二十年二月末現在預金額合計一千三百餘万盾ニ達セリ。

ホ、官營實舖
 旧來ノ官營實舖モ占領直後居民金融ノ円滑ヲ圖ル為從來ノ機構ノ儘再開ノ措置ヲ採リ現在管内十四ヶ所ニ於テ營業中ナルカ最近ニ於テハ原住民ノ懷具合ヲ及映シテカ利用狀況寧ロ閑散ト見スルル個所モアル状態ニ在リ。

ハ、郵便局及軍用郵便所
 各地郵便局ハ概々業務ヲ再開シ為替業務員昭和十八年

三月ヨリ又郵便貯金業務ハ同年十月ヨリ夫々之カ取扱ヲ開始セルカ、貯蓄獎勵ノ進展ニ伴ヒ昭和十九年三月末郵便貯金現在高六拾五万盾ニ比シ昭和二十年三月末現在高五百三拾万盾ト急増ヲ示タリ。

各地軍用郵便所ノ貯金及送金高モ軍人、單獨ノ貯蓄熱ヲ反映シ増勢著シク昭和十九年十二月末貯金現在高百五拾万圓ノ開設以來、仕向送金超過額一千二百萬圓ニ達シタリ。

ハ、敵性銀行ノ清算
 旧來味銀行、和蘭銀行、蘭印商業銀行及蘭印割引銀行ノ管下所在各店ハ台灣銀行ヲ清算人ニ任命シテ鏡債權權ノ回收ニ努メタル結果マカソナル所在店鋪分ニ付テハ十九年九月ハバンジエルマシ所在店鋪分ニ付テハ十九年十月又ハバンジエルマシ所在店鋪分ニ付テハ二十年六月整理一段落ヲ告ゲ夫々預金ノ一部拂込ヲ實施シタリ。

（二）通貨及金融
 通貨ノ流通狀況
 現在當地域ニハ盾表示南方開發金庫券（昭和十八年三

施要領ヲ新ニ定メ一層貯蓄奨励ノ強化擴大ヲ圖リ
富藏ノ發行ニ付テ昭和十九年一月政府令ヲ以テ
富藏取締規則ヲ實施シ各民政部ニ於テハ凡ユル機會
ヲ利用シテ富藏ノ發行ニ努メ居リ發行金額ハ當地
域ノ民度ニ應ジ未タ巨額ニ達セザレ共發行狀態ハ現
在迄極メテ良好ナリ
其ノ他賭博場ノ開設ヲ許可スル等現狀ニ即スル各種
ノ通貨回收方策ニ付テモ着手又ハ準備中ナリ
貸出ノ増大ニ因リ通貨膨脹ノ趨勢顯著ナルニ鑑ミ資
金放出ノ根元ニ對シ不怠不要ノ資金放出ヲ抑制スル
為管下各事業ニ對テ決定スル融資限度ノ新設並ニ擴張ニ關
シテハ民政部ニ於テ決定スルノ外昭和十八年十一月
南發及台銀貸出指導監督方針ニ關スル訓令ヲ發シテ
一層監督ヲ嚴シシハ既定計畫事業ト雖モ現地ノ實情
ニ應ジ不怠不要ト認メラルル融資ハ徹底的ニ抑制ス
ルコトトシシ重點的融資ニ依ル資金ハ効率化ヲ期シ
結果良好ニ推移シアリ

為替管理
民政府管轄地域外ノ資金ノ交流ハ特ニ必要ニ
得ザルモノヲ除キ之ヲ抑制スル方針ニシテ本邦ニ於
ケル外國為替管理法令及陸軍地區ニ於ケル為替管理
規則ニ對應シ從來ノ取締規定ヲ綜合シ新ニ為替管理
令ヲ制定シ十九年五月ヨリ之ヲ實施シタル南方開
通貨ノ賣買ハ交換ノハ日本銀行代理店タル南方開
金庫支金庫ノ出張所ハ日本銀行代理店タル南方開
昭和十九年四月民政府訓令民政部管下日本銀行代
店通貨引換規則ヲ以テ之ヲ取扱方ヲ定メ日本銀行代
管內在在邦人ノ消費ヲ規定シ通貨ノ放可及的抑
制スル為メ昭和十八年三月差當リ商社本邦人職員
對スル中央ニ於テ南方事業ノ經理運營ニ關スル根
業ヲ決定セラレ現地事業ノ運營ニ關シテハ担当企
業ヲ選定スルコトヲ不得タルハ爲メ損益ノ分配ニ關
連シテ選定スルコトヲ不得タルハ爲メ損益ノ分配ニ關

第三章 交通

第一 海運
戰局ノ現状及管下海運企業ノ情勢ニ鑑ミ來ル七月一日ヨリ
海運ノ國有國營ノ實施シ情勢逼迫ニ備フルト共ニ運輸統制
ノ一元化ヲ圖リ以テ作戰及重要物資輸送ノ完壁ヲ期スベク
目下鋭意準備中ナルモ現況左ノ通

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| (一) 民政府指定船舶ノ現況ハ左ノ如シ | | 一 隻 | 二 隻 | 三 隻 | 四 隻 | 五 隻 | 六 隻 | 七 隻 | 八 隻 | 九 隻 | 十 隻 | 十一 隻 | 十二 隻 | 十三 隻 | 十四 隻 | 十五 隻 | 十六 隻 | 十七 隻 | 十八 隻 | 十九 隻 | 二十 隻 | 二十一 隻 | 二十二 隻 | 二十三 隻 | 二十四 隻 | 二十五 隻 | 二十六 隻 | 二十七 隻 | 二十八 隻 | 二十九 隻 | 三十 隻 | 三十一 隻 | 三十二 隻 | 三十三 隻 | 三十四 隻 | 三十五 隻 | 三十六 隻 | 三十七 隻 | 三十八 隻 | 三十九 隻 | 四十 隻 | 四十一 隻 | 四十二 隻 | 四十三 隻 | 四十四 隻 | 四十五 隻 | 四十六 隻 | 四十七 隻 | 四十八 隻 | 四十九 隻 | 五十 隻 | 五十一 隻 | 五十二 隻 | 五十三 隻 | 五十四 隻 | 五十五 隻 | 五十六 隻 | 五十七 隻 | 五十八 隻 | 五十九 隻 | 六十 隻 | 六十一 隻 | 六十二 隻 | 六十三 隻 | 六十四 隻 | 六十五 隻 | 六十六 隻 | 六十七 隻 | 六十八 隻 | 六十九 隻 | 七十 隻 | 七十一 隻 | 七十二 隻 | 七十三 隻 | 七十四 隻 | 七十五 隻 | 七十六 隻 | 七十七 隻 | 七十八 隻 | 七十九 隻 | 八十 隻 | 八十一 隻 | 八十二 隻 | 八十三 隻 | 八十四 隻 | 八十五 隻 | 八十六 隻 | 八十七 隻 | 八十八 隻 | 八十九 隻 | 九十 隻 | 九十一 隻 | 九十二 隻 | 九十三 隻 | 九十四 隻 | 九十五 隻 | 九十六 隻 | 九十七 隻 | 九十八 隻 | 九十九 隻 | 一百 隻 |
| (二) 昭和十七年民政府指定航路開設以降ノ被害状況ハ左ノ如シ | | 一 隻 | 二 隻 | 三 隻 | 四 隻 | 五 隻 | 六 隻 | 七 隻 | 八 隻 | 九 隻 | 十 隻 | 十一 隻 | 十二 隻 | 十三 隻 | 十四 隻 | 十五 隻 | 十六 隻 | 十七 隻 | 十八 隻 | 十九 隻 | 二十 隻 | 二十一 隻 | 二十二 隻 | 二十三 隻 | 二十四 隻 | 二十五 隻 | 二十六 隻 | 二十七 隻 | 二十八 隻 | 二十九 隻 | 三十 隻 | 三十一 隻 | 三十二 隻 | 三十三 隻 | 三十四 隻 | 三十五 隻 | 三十六 隻 | 三十七 隻 | 三十八 隻 | 三十九 隻 | 四十 隻 | 四十一 隻 | 四十二 隻 | 四十三 隻 | 四十四 隻 | 四十五 隻 | 四十六 隻 | 四十七 隻 | 四十八 隻 | 四十九 隻 | 五十 隻 | 五十一 隻 | 五十二 隻 | 五十三 隻 | 五十四 隻 | 五十五 隻 | 五十六 隻 | 五十七 隻 | 五十八 隻 | 五十九 隻 | 六十 隻 | 六十一 隻 | 六十二 隻 | 六十三 隻 | 六十四 隻 | 六十五 隻 | 六十六 隻 | 六十七 隻 | 六十八 隻 | 六十九 隻 | 七十 隻 | 七十一 隻 | 七十二 隻 | 七十三 隻 | 七十四 隻 | 七十五 隻 | 七十六 隻 | 七十七 隻 | 七十八 隻 | 七十九 隻 | 八十 隻 | 八十一 隻 | 八十二 隻 | 八十三 隻 | 八十四 隻 | 八十五 隻 | 八十六 隻 | 八十七 隻 | 八十八 隻 | 八十九 隻 | 九十 隻 | 九十一 隻 | 九十二 隻 | 九十三 隻 | 九十四 隻 | 九十五 隻 | 九十六 隻 | 九十七 隻 | 九十八 隻 | 九十九 隻 | 一百 隻 |
| (三) 至自航路ノ進出運航業者並ニ各産業用發會社ハ海運企業ノ | | 一 隻 | 二 隻 | 三 隻 | 四 隻 | 五 隻 | 六 隻 | 七 隻 | 八 隻 | 九 隻 | 十 隻 | 十一 隻 | 十二 隻 | 十三 隻 | 十四 隻 | 十五 隻 | 十六 隻 | 十七 隻 | 十八 隻 | 十九 隻 | 二十 隻 | 二十一 隻 | 二十二 隻 | 二十三 隻 | 二十四 隻 | 二十五 隻 | 二十六 隻 | 二十七 隻 | 二十八 隻 | 二十九 隻 | 三十 隻 | 三十一 隻 | 三十二 隻 | 三十三 隻 | 三十四 隻 | 三十五 隻 | 三十六 隻 | 三十七 隻 | 三十八 隻 | 三十九 隻 | 四十 隻 | 四十一 隻 | 四十二 隻 | 四十三 隻 | 四十四 隻 | 四十五 隻 | 四十六 隻 | 四十七 隻 | 四十八 隻 | 四十九 隻 | 五十 隻 | 五十一 隻 | 五十二 隻 | 五十三 隻 | 五十四 隻 | 五十五 隻 | 五十六 隻 | 五十七 隻 | 五十八 隻 | 五十九 隻 | 六十 隻 | 六十一 隻 | 六十二 隻 | 六十三 隻 | 六十四 隻 | 六十五 隻 | 六十六 隻 | 六十七 隻 | 六十八 隻 | 六十九 隻 | 七十 隻 | 七十一 隻 | 七十二 隻 | 七十三 隻 | 七十四 隻 | 七十五 隻 | 七十六 隻 | 七十七 隻 | 七十八 隻 | 七十九 隻 | 八十 隻 | 八十一 隻 | 八十二 隻 | 八十三 隻 | 八十四 隻 | 八十五 隻 | 八十六 隻 | 八十七 隻 | 八十八 隻 | 八十九 隻 | 九十 隻 | 九十一 隻 | 九十二 隻 | 九十三 隻 | 九十四 隻 | 九十五 隻 | 九十六 隻 | 九十七 隻 | 九十八 隻 | 九十九 隻 | 一百 隻 |

二

償却費、金利、船体保険料、支拂、甚しき下り、且戦局
 緊迫セル情況ニ鑑ミ、彼等ヲシテ經營上ノ危險ヲ顧慮ス
 ルニシテ、船舶保險料上ニ一意邁進セシムベク、一極當
 府ニ於テ買上セ官有船舶トシ、ル上、原所有者ニ貸下セ、運輸
 セシメ、マツアリ

輸送

所有船舶ノ減少ニ伴ヒ、輸送計畫量ヲ物動計畫ニ調合シ
 シムルコトハ不可能ナルヲ以テ、輸送順位ヲ査定、上月々
 ノ可動船腹ニ依リ、其ノ月、最重要物資ノ輸送ニ從事シ居
 レリ。之ヲ要スルニ輸送順位ハ、第一食糧、第二食糧ニ不安
 ナキ限り、作戦輸送協力、第三交易物資及文流物資、第四勞務
 者輸送、第五重要産業用發物資、五順位ヲ樹テ、以上五順位
 物資輸送、為ニハ、既定配船計畫、變更ヲモ容認シ、重点輸
 送ニ違算ナキヲ期シ居レリ。

管下運輸能率ハ内地ノハ、レニ比シ著シク低位ニアリ、蓋シ
 船舶修理施設、不備ナルコト、港灣荷役能率惡シキコト、船
 員ノ素質惡シキコト、掌其ノ主ナル原因トシテ、舉ゲ得可シ
 此処ヲ以テ後述スル如ク、船舶修理施設ヲ整備スルト共ニ
 民政府令第五六號航海補助規程及民政府令第五七號航海

三

獎勵金支給規程ヲ以テ、船主及船員ニ對シ、運輸成績ニ應ジ
 航海補助金及航海獎勵金ヲ支給シ、以テ運輸能率ノ増進ト
 會社經理、健全ナル經營ヲ企圖セリ

四

民船統制措置トシテ、民政府令ヲ以テ、民政府管轄地域暫定船
 令ニ依リ、五噸以上ノ船舶ノ登録ヲ實施シ、別途民船運輸會
 令ニ依リ、此ノ一元の統制ヲ實施シ、マツアリ、現在運輸會所屬
 船舶千九百三十一隻、千七百九十四噸ナリ

五

現地亦造船事業ハ艦隊命令ニ依リ、第百二海軍工作部及當府
 第一區介ニ依リ實施シ、マツアリ

六

船舶建造業ノ樹立及之ニ基ク建造注文
 船舶建造業ノ技術的指導及監督
 船舶事業者ニ於テ、調達困難ナル資材ノ供給及斡旋
 南、西方面海軍民政府

七

木造船事業ノ一般業務及會計ニ關スル指導監督
 造船施設ノ建設整備(資金及勞務計畫ヲ金ニ)
 木材供給及斡旋

一、職貧及勞務者、生活施設、確保、斡旋
 右監督區、令ニ依リ、技術指導、及主機、ハ工作部ニ依存、土木、機及
 調達、可能、物資ニ関、シテ、ハ、民政府ニ於テ、他企業ヨリ、優先、配給
 ヲ實施、シ、フアリ
 尚、現在、水造、船ノ、建造、ノ、障礙、ト、レ、テ、ハ、左ノ、諸点、ヲ、擧、ゲ、得
 一、主機、關、ノ、入、手、困難、船、体、完成、スル、モ、主機、關、ノ、入、手、出来
 口、ナル、為、進、水、又、ハ、竣工、ヲ、阻、ル
 二、技術、工、賃、ノ、不足
 此、處、ニ、於、テ、凡、ソ、ル、困難、ヲ、排、シ、セ、リ、建、造、ノ、増、強、ヲ、圖、ル、ハ、昨、年、九
 月、以、降、敵、機、ノ、爆、撃、ヲ、受、ケ、テ、ハ、新、南、興、業、新、造、船、部、門、ヲ、ホ、ル
 不、才、ニ、移、轉、ス、ル、他、專、ラ、分散、立、地、ノ、上、小、舟、艇、ノ、建造、ニ、當、ラ、ン
 更、ニ、亦、造、船、建造、ノ、前途、極、メ、多、難、ナル、狀況、ニ、鑑、ミ、機、帆、船、建
 造、計、画、ヲ、阻、害、セ、ザ、ル、地、域、ヲ、選、ビ、テ、プ、ラ、ウ、レ、ノ、建造、ニ、全、力、ヲ
 傾、注、シ、アリ、即、ケ、セ、レ、バ、ス、民、政、部、ニ、於、テ、ハ、十、九、年、度、六、千、噸
 建造、計、画、ヲ、實施、シ、現在、迄、四、千、五、百、噸、ノ、竣工、ヲ、見、タ、リ
 五、船、舶、修、理、施設

海之

現、地、進、出、機、帆、船、ハ、諸、種、ノ、狀、況、ヨリ、回、航、ヲ、急、ギ、シ、ル、為、及、船、員
 ノ、技能、不、熟、又、ハ、機、帆、船、ト、シ、テ、無、理、ナ、長、距離、航行、ニ、從事、セ、レ、
 ヲ、アル、為、修理、ヲ、要、ス、ル、モ、多、ク、現、在、航、船、機、帆、船、ノ、稼、高、年、向
 大、キ、月、ト、算、定、サ、ル、即、ケ、テ、半、數、以、上、ハ、修理、中、又、ハ、要、修、理、船、ニ、
 之、ヲ、機、帆、船、ノ、建造、能力、ノ、一、部、ヲ、割、キ、テ、モ、修理、施設、ノ、整備、ニ、
 努、メ、ザ、ル、可、カラ、ザ、ル、實、情、ニ、シ、テ、之、カ、整備、ニ、鋭、意、努、力、中、ナ、リ
 尚、船、用品、ハ、現、地、ノ、手、困難、ナル、ヲ、以、テ、東、印、度、船、用品、會、社、ヲ、進
 出、セ、シ、メ、萬、全、ヲ、期、シ、フ、アリ
 六、船、員
 戰、局、ニ、鑑、ミ、優、秀、船、員、ノ、養成、計、画、ヲ、實施、シ、銳、意、新、船、員、ノ、整備
 ニ、努、ム、ル、ト、共、ニ、既、成、船、員、ニ、就、テ、モ、福利、厚、シ、施、設、ノ、完、備、ヲ、急
 ギ、又、時、ニ、原、住、民、船、員、ニ、ハ、帶、津、時、ヲ、利、シ、適、宜、放、育、訓、練、ヲ、實施、
 ス、ル、等、英、ノ、志、氣、昂、揚、素、質、向、上、ニ、努、メ、以、テ、之、カ、確保、ニ、遺、慮、ナ
 (一) 養成
 戰、局、ノ、要、請、ニ、應、ジ、外、處、ニ、船、員、ノ、急、速、供給、ヲ、目、途、ト、シ、從、來、ノ、在
 部、年、約、三、〇、〇、名、ニ、加、フ、ル、ニ、意、圖、シ、十、二、月、一、日、ヨリ、新、二、
 口、ボ、リ、ン、ゴ、バ、ン、ジ、エ、ル、マ、シ、ン、及、シ、ン、ガ、ラ、ビ、ヤ、ノ、三、ヶ、所、ニ

普通海員養成施設ヲ増設シ通シテ高等部年約六〇名
 通部年約三三〇名ノ養成ヲ行ヒ來リタル増加ハ最近ノ
 敵機及敵艦ノ跳梁ニ因リ被害船舶ノ増加ハ伴ヒ漸ク下
 艦隊機船員ハ増加シ傾向ヲ示シ來リタル増加ハ伴ヒ漸ク下
 地区ニ於ケル敵機空爆ノ激化ニ因リ漸ク同地ニ於ケル大
 量船員ノ養成ニ困難ヲ伴ヒ來リタル増加ハ伴ヒ漸ク下
 月一日ヨリ左ノ通既設海員養成施設ノ再整備ヲ行ヒ實
 優秀船員ヲ送出シ目標トシテ之ガ養成ニ邁進シワ行
 尚生徒ノ募集ハ一般人的資源ノ枯涸ニ伴ヒ相當困難ナ
 實情ニアルモ本年九月設立セラレタル海員養成施設ニ
 セシノ各民政支部（ジャワ地区ハスラバヤ連綿部）ニ於
 實施シ漸次海事思想ノ普及教育ノ普及ニ伴ヒテ入所生
 確保ノ見込ニテ得所期ノ目的達成ニ努力セリ

| 名 | 管理 | 所在地 | 定員 | 養成期間 | 入所者数 |
|-----------------|------|------|-----|------|------|
| 海軍政府海員養成所 | 海軍政府 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |

海

| 名 | 管理 | 所在地 | 定員 | 養成期間 | 入所者数 |
|-----------------|------|------|-----|------|------|
| 海軍政府海員養成所 | 海軍政府 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |
| 海軍政府海員養成所（民政支部） | 民政支部 | バタビラ | 一五〇 | 四月 | 九〇〇 |

(一)
 海軍主担任地域就船乗組員ノ為メ泊慰安休養
 買第諸般ノ福利厚生施設ハ邦人船員ニ對シテ
 ハ内地ヨリ進出セル日本海運報國團又居住民船員ニ對シ
 ルモハトシテハ一昨午日本海運報國團又居住民船員ニ對シ
 公會夫々之ヲ經營シ現地ニ相當ノ効果ヲ收メ來リタル
 戦局ノ進展並ニ現地ニ相當ノ効果ヲ收メ來リタル
 生志氣昂揚技能向上等ヲ圖リ其確保ニ遺憾ナキヲ期シ
 併テ船舶運航能力ノ増進ニ資センガ為メ前掲ノ一
 復強固ナル一元的な外廓機用設置ノ要望切ナルヲ了

(三) 福利厚生施設
 客年九月海運奉公團、設立ヲ見タルニ依リ、之ヲ早急ニ船員ノ福利ヲ厚生ニ関スル諸般ノ施設ノ整備ニ當ラシメ船員ノ福利ヲ圖リ併セテ船舶運航能率ノ増進ニ資シツ

及海運奉公團、客年七月、民政部令第三九號ヲ以テ海運奉公團令ヲ公布施行シ、之ニ基キ當府ヨリモ基金五〇萬圓ヲ支出シ、當マカフサル市ニ同年九月一日海運奉公團（法人）ヲ設立シ、爾來官民一如本團ノ指導運営ニ努カシメ、支部ヲ一マカフサル、又バンジュール、モンガラヤ、及「スラバヤ」ノ四ヶ所ニ置キ、又「パレパレ」「メナド」「バリク」及「パン」「ボン」「ヤナク」等、ア「レンバル」「アインペ」「シ」等、主要港ニ支部出張所ヲ設ケ、船員ノ確係募集、教育訓練、福利厚生及海事思想ノ普及等、其ノ他所期ノ目的達成ニ邁進シ、ワ「アリタル」ガ本年五月二十五日、民政府機構改革實施ニ依リ、同府「スラバヤ」運輸部、設置ニ伴ヒ、本團モ今後「旅ケル」事業遂行ノ敏捷化ヲ圖ル為ニ、即應シ、大月一日團令及規約ヲ改正シ、本部ヲ「スラバヤ」ニ移転スルト共ニ、「ジヤ」「支那」ヲ廢止シ、之ニ合併セシメ、同時ニ團長モ民政府「スラバヤ」運輸部長兼代就任セリ

海運

(四) 船員農園等
 船員農園等アリ、海軍主担任地域、確立シ、大使命ニ挺身スル、新船舶、增加ニ伴ヒ、敵襲下海上輸送ノ重難、功制度ヲ確立シ、以テ志氣ノ昂揚ヲ圖リ、併セテ船舶輸送能率ノ増進ニ資センガ為、客年四月一日民政府告示第四號ヲ以テ、船員農園令ヲ制定シ、公布施行セリ

(五) 船舶職令、制定
 海軍主担任地域、航行船舶ノ増加ニ伴ヒ、敵襲或ハ敵機襲撃下、危險海域ヲ航行シ、海上輸送ノ重任ヲ果スベキ等、船舶制度ヲ確立シ、技能優秀ナル為、早急現地ニ即應セル船舶職令アリタルヲ以テ、客年十一月民政府令第五八號ヲ以テ、南西

現在迄ニ整備セラレタル之等施設、主ナルモノハ、船員寮「マカ」「サル」外、大「所」ハ「メナド」及「ビート」ハ完成後、燒失シ、駐守施設「バンジュール」マ「レン」一「衣料」其ノ他、船員ノ生活必需品配給施設、マ「カ」「サル」外、各支部出張所殆んど全部ニ「レ」テ、目下針要準備中ノモノトシテ、ハ船員寮、慰安施設、船舶食糧配給施設、船員農園等アリ

方面海軍民政府暫定船舶職員令其、他関係規程ヲ公布シ
本年四月一日ヨリ施行セリ。

七

(一) 港務倉庫 荷役関係
當府管下各港灣ニ於ケル倉庫並ニ荷役業ハ當初海軍ニ於
テ夫々担当業者ヲ指定各地區ニ進出セルハ荷役能率ハ機
械設備ノ不備、解、曳船及貨物自動車、不足、責任荷役量
制度ノ不備等ニ因リ、荷役能率不長ナルヲ
以テ之等ニ関シ対策ヲ講ビツツアリ。

(二)

(イ) 港務施設現況
(ロ) マカサール港
(ハ) ビートン港

(イ) パロパ港
(ロ) パレパレ港

(ロ) バルクパパン港

大型プラウ用接岸施設設計画中
メナド港、代港トナス可ク汽船、機帆
船用接岸施設並ニ階帯ノ各施設目下
施行中、應和十九年九月敵機跳梁
以降工事中止セリ
機帆船用接岸施設施行中
汽船並ニ大型プラウ用接岸施設實施
中
現民政部機橋奥隣ハ機帆船用接岸施
設實施中

(イ) パマンカト港
(ロ) ボンケアナク港
(ハ) レンバル港
(ニ) スターゲン港

機帆船用接岸施設目下施行中
機帆船用接岸施設目下施行中
汽船用接岸施設施行中
機帆船用石炭荷役施設施行中

(三)

セビバス地区

マカサル港機橋復舊及起重機据付工事

ボルネオ地区

バリト港増強第一期工事

ナガラ港増強二期工事

スターゲン増強工事

スニダ地区

フレレン機橋工事

ワルカンバン港

機橋修理組合工事
倉庫復舊工事

戦局の急変に際し、推移上各般戦勢の逼迫に伴ひ、軍需資材の緊急獲得に必要ナル産業開發ノ工事推進並ニ作戦遂行上直接必要ナル道路ノ建設が各地ニ於テ要請せられ、之が實施方策急務として努力力シツテアリ列舉せば左ノ如シ

(一) セレベス地区
 イ マリノ街道周邊作戦輸送路整備工事
 ロ マゼネ、マムヂ、ニ間道路改良工事
 ハ スングミナサ、タカラ止道路舗装工事
 ニ ホン、ル、ウ、ハ、ニ間道路補修工事
 ホ コロノダ、ハ、ニ間道路補修工事
 ハ 橋梁復舊工事
 ト マリノ、チヤン、ハ、ニ間道路建設工事實施中ノ處其ノ後ノ諸種ノ情况ヨリ牛馬車通行可能ナル現狀ヲ以テ一應工事中止ト決定目下局部的ニ補修中ナリ

(二) ボルネオ地區
 イ バリック、ハ、ニ間道路工事該地方戦局ノ急展開ト共ニ現在サマリ、ニ本部ヲ置キ周邊土木工

擴充改善之努力ヲ果タル結果一應之ガ整備調整ヲ了シ敵襲地域ヲ除キテハ概テ圓滑ニ運行シツアリ左ニ主ナル業務ハ復舊整備狀況及各地域別郵便局之從事員ノ狀況等ヲ示サバ

郵便業務復舊狀況

昭和十七年十一月 各民政部門間通郵開始
 昭和十七年十二月 陸軍主担任區域トハ通郵開始
 昭和十八年一月 日本トノ間ニ通郵開始
 二月 無料郵便制度開始
 三月 書留郵便制度開始
 七月 本府相互間及本府ト日本トノ間ニ通郵開始
 八月 商社航空郵便開始
 九月 比島トノ間ニ通郵開始
 十月 滿洲支那蒙疆香港トノ間ニ通郵開始
 昭和十九年 始
 四月 信書送達ニ檢閲許可制實施
 九月 泰國及佛印トノ間ニ通郵開始
 一發邦人ト戰地ニ在ル軍人軍屬間ニ發受スル郵便取扱開始

陸
 参
 事

十月 兵補郵便取扱開始
 郵便署及従業員狀況

| 地 區 別 | 郵便局 | 補助郵便局 | 従事員 |
|--------|-----|-------|-----|
| セレベス地區 | 四 | 四九 | 三一四 |
| ホルネオ地區 | 五 | 四二 | 二九八 |
| ホルネオ地區 | 四 | 二四 | 一六八 |
| 小スンダ地區 | 一三 | 一一五 | 七八〇 |

(二)

郵便貯金ハ昭和十八年十月業務開始以來極メテ良好ナル増進振ヲ示シ創業後半年間ニシテ百萬盾ヲ突破シ其ノ後一ケ年ニシテ五百萬盾ヲ突破スルノ盛況ニ在リ本年五月末ニ於ケル貯金現在高ハ六百二十余萬盾ニシテ之ヲ地區別ニ見レバ左ノ如シ

| 地 區 別 | 預 入 員 | 金 額 | 一人當金額 |
|-----------|----------|--------------|-------|
| セレベス | 一三八九六七人 | 二、一六一、四四一、四七 | 一五、五五 |
| ホルネオ | 六五〇六七人 | 三、二二七、九二二、七二 | 四九、六〇 |
| ホルネオ | 二八、八〇八人 | 五七、八〇一、八七 | 二〇、〇九 |
| 其他(荷屬東印度) | 二、六九七人 | 二六、八七五、五七 | 九九、六六 |
| 計 | 二三五、五三九人 | 六、二三六、九六一、六三 | 二六、四八 |

(三)

郵便為替
郵便為替ハ本府二月間實施ヲ見タル管内電信為替ノ取扱開
始ヲ以テ一應應急整備計画ヲ完了シ爾來極メテ順調ニ運
行シツツアリ左ニ其ノ主ナル為替業務ノ整備状況ヲ掲記
ス

為替業務整備状況

昭和十七年九月 東印度為替 (本府管内相互間)

昭和十八年三月 日本為替 (本府ト陸軍主担任區域間)

昭和十九年一月 東印度無料為替制度開始 (通常及小為替)

五月 日本為替 (本府管内相互間)

五月 兵補為替 (本府管内相互間及陸軍主担任區域)

昭和二十年二月 東印度電信為替 (本府管内相互間)

ニシテ最近一ヶ月間ニ於ケル之が取扱状況ヲ示サバ

| 振種 | 別 | 口 | 数 | 金 | 額 |
|-----|----|---|-----|-----|-------|
| 振日本 | 為替 | ニ | 一七九 | 六四三 | 八四一〇〇 |

二

電政

(一) 一般状況

(二)

電信

| 振種 | 別 | 口 | 数 | 金 | 額 |
|-----|----|---|-----|-----|-------|
| 振日本 | 為替 | ニ | 一七九 | 六四三 | 八四一〇〇 |

民政府管内ニ於ケル電信電話ハ前同申告ノ後急速ナル戦
備増強ニ力ヲ竭シ主トシテ軍通信ヘノ協力耐弾施設構築
設備ノ分散疎開等自給自戦體制確立ニ邁進シツツアリ

六月現在ニ於ケル無線電ハ前同申告ヨリガラカンヲ削リ
タル左ノ十三高ナリ
セレベス地區 マカツサル、メナド、ボマラ、グロン
ボルネオ地區 タロ、バツバツ、
バンセルマシ、バリツク、サマリ、
ンチア、ナク、コタバル、
クタパン、シンガラジャ、アンパン

但シバリソクハパンサマリングハ國際電氣通信株式
會社要員ノ召集及設備ヲ軍ニ吸收セラレタル結果六
月十七日以降連絡不能ナリ
管外トノ通信連絡ハ從前通國滑ニ運行シツツアリ
民政府スラバヤ連絡部新設サルルヤ「スラバヤ」マカツサル
間直通無線線同線新設ノ為「スラバヤ」ニ無線局ヲ新設近ク試
驗通信開始ノ運ニアリ
南部セレベス地區ノ各據點ニハ長期自給戰ニ必要ナル通
信設備ノ移裝工事ヲ施行中ナリ其ノ他ノ地區ニ於テモ概
不同様ノ状況ナリ
(三) 電話
電話ノ利用程度ハ前回申告當時ト大差ナキモ非常時ニ對
スル萬全ノ策ヲ考究シ現地各部隊ト緊密ナル連絡ノ下ニ
急速ナル戰備強化ニ資シツツアリ
對内地無線電話ハ真空管ノ入手不可能ナルト内地ニ於ケ
ル全面的無線電話廢止ノ結果再開ハ期待シ得ザル現狀ナ
リ
(四) 同盟通信
前回申告ト大差ナキモ「タラカン」同盟ハ解消セリ 艦隊報

陸
陸

第五
一

(五) 航空通信
航空通信ニ對スル設備ハ輸送機寄航地ノ減少ニヨリ現在
マカソサルバンセルマシシポナク三司ノミトナレ

(六) 放送
放送
前田申告ノ後情勢ノ變化ニ因リ「メナド」ハ放送ヲ中止シ他
ハ概不續行シツツアリ旁々相當數ノ放送受信機ヲ作戰用
ニ供出セリ

土木
上水道
マカソサルニ於テハ艦船給水、諸工場ノ需要増加其ノ他ノ
諸要求ニ依リ一日ノ給水能力三千屯ヲ六千屯ニスバク惡條
件ヲ克服シテ之ヲ完或シ目下之ガ確保ニ諸手段ヲ講ジツツ
アリ且ツ殺菌藥品入手困難ノ折柄塩素瓦斯自家發生設備考
案中ナリ

四

同「デ」地方、兵營設營工事

其ノ他
小スンガ
又ハ
規有
又ハ
良工
ンボ
建國
或院
建設
準備
中
連日
中ニ
着工
豫定
ナリ

第

一般教育

第四章、文化

戰前、現段階ニ即應シテ文政施策ノ根幹ヲ民心ノ把握ニヨル東印度民族ノ積極的協力、總握並ニ學校ニ於ケル作教育勤勞教育及軍事教練ノ強化青年團其他ヲ通ジテ行フ新シキ勤勞觀ノ確立ト防衛精神ノ振作等ニ依ル直接戦力ノ増強トニ置キ特ニ前者ニツキハ獨立条約以後ノ施設ノ進展ニ鑑ミ日本の教化ノ滲透ニ依ル大東亞ノ一環トシテ統一アル東印度民族ノ^{積極的}訓練或ト指導的人材育成ノ強化トニ重宝ヲ道キテ努カシ来レリ

二 東印度民族教育ノ確立

量ニ昭和十八年四月「暫定學制基本要綱」實施セラレテ柔佛民地の弊風^{滲透}、根柢トモ云フベク「オランダ型」に偏知教育ハ漸次日本の教育ニ轉換ヲ見教化ノ滲透見シベギモノアルタルモ其後ニ於ケル教育ノ進展ト施策ノ發展トニ伴ヒ必ズシモ右要綱ニテハ^{通達}ニ基^簡ヲト^明ラカニスルヲ得ガルニ至レリ内テ昭和二十年五月二十七日海軍記念日ヲ期シテ「東印度民族教育令」^{施行}同一實施要領ト訓

二、東印度民族教育の確立

量ニ昭和十八年四月「暫定學制基本要綱」實施セラレテ
 來植民地的弊風滲透ノ根際トモ云フベク「オランダ型」偏
 知教育ハ漸次日本の教育ニ轉換ヲ見越化ノ滲透見レベギ
 ノ「アリタル」モ其「後」於ケル教育ノ進取ト施策ノ發取トニ
 伴ヒ必ズシモ右要綱ニテハ「通達」ニ莫ク「簡」ヲトフコト明ラカ
 ニスルヲ得ガレニ至レリ「昭和二十五年五月二十七日海軍
 記念日」期シテ「東印度民族教育令」施行「一同實施要領」ハ「訓

令一ヲ制定シ帝國ノ指導ノ下大東亞戰事ヲ完遂シ新自家ヲ
 創建スルニ必ズナル民族實質ノ鍊成ヲ主眼トスル印度民
 族教育ノ目標ヲ明ラカニシ理段階ニ於ケル文教施策ノ重要
 ヲ示シテ今後ニ於ケル文教指導ニ遺憾ナキヲ期シソツア
 三、學校教育ノ整備充實
 暫定學制基本要綱ニヨリ旧蘭時代ニ於テ複雜多岐ヲ極メタ
 ル學校教育制度ハ四年ノ師範學校並ニ通中學校及實業中學校
 二年制ノ教員養成所及實務學校並ニ修業年限各三年ノ上級
 公學校及普通公學校ニ統一セラル私立學校ヲ整理統合シ公
 立學校ノ充實ヲ圖リ公學校ノ授業料ヲ撤廢シテ教育ノ普及
 ニ努メタル結果教育ニ對スル地方住民ノ関心漸ク高マリ就
 學希望者ハ常ニ増加ノ一路ヲ辿リ公學校ノ児童ハ戰前ノ一
 五倍強ニ達セリ
 四、青年團ノ活動狀況（防衛挺身隊）
 青年ニ對シテ團體的實踐訓練ヲ施シ大東亞建設ノ理念ヲ体
 認シ我ガ施策ニ協力セシムンガ爲昭和十八年十一月丁未佐
 民青年團總成指導綱目ヲ制定シテ郷土學校及職場ニ基礎
 ヲ置テ青年團ヲ結成セシメ地方ニ配置セラルルヲ以テ文教
 策ヲ通ジテ強カニ指導シホレル所急達ニ其ノ普及ノ見地在

況於テハ既ニ團體的基礎訓練ノ域ヲ脱シ直接戰糧増産ニ差
 増強建設促進治安防衛等軍政及作戰ニ寄與シ時ニ兵制制度
 實施以來セガ母胎トシテノ役割ヲ果シ來レリ今年ニハ戰
 局ノ推移ニ鑑ミ青年團ノ軍事教練ヲ一層強化シテ郷土防衛
 宿敵必滅ノ氣概ヲ益ニ振作シ治安防衛ニ自發的ニ協力セシ
 ムルト共ニ有事ノ際ニ於ケル補助兵力タラシメ得ル如クヲ
 導シアリタルガ更ニ第二南遣艦隊命令ニ接シ本年三月青
 田ヲ基盤トシテ防衛挺身隊ヲ結成セシメ常ニ青年團ノ甲
 トシテ生産増強勤務奉公治安防衛ニ當リ敵未寇ニ際シハ
 所在陸海軍部隊指揮官ト緊密ニ連絡ヲ保チ全面的ニ重軍ニ
 協力醜敵ヲ擊碎シテ御土防衛ヲ全ウセシムル如ク其ノ訓練
 ヲ行ヒソツアリ
 尚原駐民ノ青年團指導員防衛挺身隊幹部等ノ養成ノ重要性
 ニ鑑ミ其ノ養成訓練ヲ行ハノ外邦人指導陣容ノ整備ニ注意
 ヲ用ヒソツアリ
 青年團ト共ニ少年團婦人會等ノ編成並ニ之ニ對スル指導啓
 蒙ヲ漸次實施セラレソツアリ
 五、指導的人材育成
 一、所屬留學生ノ派遣

遺ニ日本ヲ理解シ之ニ等價ト發着トヲ感ジ日本精神ヲ体
 得シタル原住民指導者養成ノ目的ヲ以テ昭和十八年ヨリ
 内地留學制度ヲ實施シ優秀且名門ノ門生タル青年ヲ簡拔シ
 内地ニ留學セシメ其ノ第一同留學生ハ既ニ出発當初
 ニ於ケル豫定期間ノ學習ヲ終ハタルモ戰局其ノ他ノ事情
 ニ變ミ尚内地ニ留メテ更ニ修業ヲ續行セシムルコトナ
 レル 第二同留學生豫定者ハ現地ニ於ケル集團的準備訓
 練實施中ニ疲弊困難トナリタルメ一應各自ノ志望學科
 等ニ應ジ民政府同管下各廳署ニ於テ實習セシメツツアリ
 タル處令報建國院或院設立ノ運ビトナリタルニツキ本年
 特別中學校ヲ卒業セル學生ヨリ南方特別留學生豫定者ト共
 ニ建國院本科ノ入學セシムルコトトセリ
 (四) 建國院或院ノ設置
 政治經濟文化ノ發展ニ於テ極要ナル任務ヲ担當シ中先
 東亞戰爭ノ完遂ト新國家ノ創建トニ挺身スベキ指導的人
 材ノ育成ヲ目的トスル海軍地區最高ノ教育機關トシテ建
 國院或院ヲ設置スルコトナリ本年四月二十九日天皇
 佳節ヲ期シテ建國院或院規程及同教育綱領ヲ公布シ既ニ
 南部セレバスホ達ノ地ニ其ノ敷地ヲ決定シ九月七日ヲ期

文二

シテ開校スヘク着々準備中ナリ
 (三) 依託學堂制度ノ實施
 海軍地區ニ於ケル官廳其ノ他ニ於ケル上級技術員ノ養成
 ノ目的トシテ陸軍地區所存ノ大學及高等專門學校ニ派遣
 シ醫學農林獸醫工業等指定セラルタル技術ヲ修得セシム
 ル目的ノ下ニ依託學生制度ヲ實施シ來リ本年三月其ノ第
 一回卒業生林業ヲ海軍政務ノ配置セリ
 (六) 邦人指導員ノ充實
 義ニ内地ニ要スル邦人大教要員ハ昭和十九年中ニ凡そ
 任セラル以テ之ヲ重要學校ニ配置シ原住民職員ノ指導ニ任
 ゼシムルヲ共ニ特ニ多數ノ小此有為ノ大教要員ヲ地方第一
 線ニ進出セシメタルニ依リ普通教育ノ發達ヲ遂ゲタルハ東
 ニ其ノ利便ノ徹底ニツキ一錢ノ躍進ヲ遂ゲタルハ東ニ其
 般地方住民ニ對スル指導發達ニ於テモ多大ノ効果ヲ收メツ
 ツアリ之等文教要員ノ存在ハ地方ニ於ケル生産増強防衛協
 力就中地方青年層戰力化ノ中心タルハ觀ヲ呈シ直接戰力増
 強ニ寄與シツツアリ
 (七) 教員ノ錬成及教育
 日本陸海軍教育ノ急進ナル邊境ヲ圖ランガ為師範學校教員養成

所等、充實ニ努ムト共ニ舊教員ニ對シテモ日本の教育ヲ
 進メシ其ノ思想精神ノ切替ヲ行ヒ併セテ日本の教育ノ方針
 及教授方法等ニ通セシメ其ノ實質ノ向上ヲ圖ラシガ爲ニ再教
 育施設トシテ、講習會ヲ邦人文教要員ニ起テ共ニセル指
 導ノ不ニ強カニ實施シソツアリ
 ハ、教育用圖書ノ編纂發行
 教科書ニ關シテハ、明治時代ノ教科書、内容ニ徹底の精
 討ヲ加ヘ日本の教育方針ニ則リ當地ニ事情ニ格適セル新
 教科書ヲ編纂シ一部ヲ以テ地ニ印刷シ速急ニ配付スル方針
 ナリシ處、戦局ノ推移ニ伴ヒ地ニ印刷シ速急ニ配付スル方針
 共ニ現地ニ於ケル資料、印刷能力等益々困難ノ度ヲ加ヘ來レ
 リ、然ルニ教科書青年團指導書其ノ他一般教化用圖書ノ必
 要ハ愈々緊迫ヲ告ゲツツアルニ鑑ミ現下軍政進行上必要
 ナル最少限度ノ教科書類ノ現地自給ヲ確保セシメ陸軍地
 域ニ係員ヲ派シテ必要ナル方途ヲ講ズルノ外、學徒ノ勤勞ニ
 依リ印刷製本ノ自給自足ヲ圖ル等上記困難ノ解決ニ力メツ
 ツアリ
 九、學校ノ疎開
 昭和十九年下半期以來各地區ニヨリテハ學校ヲ地方ニ分散セ

シ

式

シメテ敵ノ空襲ニヨリ被害及學業ノ停止ヲ最少限度ニ止メ
 且疎開先ノ環境ヲ利用シテ日本の且決戰的練成教育ヲ行ヒ
 豫備以上ノ効果ヲ收メツツアリ
 十、地方住民教化ノ施設等
 一般地方住民ヲ對象トスル教化施設機關トシテ公學校共ノ
 他ノ公共施設ニ村民學校ヲ附設シ日常村民生活ニ必要ナル
 簡易ナル知識技能ヲ授ケ地方民衆ノ向上ニ資セシムルコト
 トセリ
 財局認識ノ徹底、民衆精神ノ昂揚、生活ノ刷新、生産増強ハノ協
 カ等ヲ日途トシテハンフレスト紙芝居、音樂民衆演劇(サンデ
 ー)等ヲ活用シテ啓蒙宣傳ヲ行ヒツツアリ
 ナ、日本語ノ普及
 (一)日本語學校等ノ開設
 明治二十年外、言語政策ニ及シ廣ク日本語ヲ普及セシメ民族
 實質ノ向上トシテ、其ノ眞ノ意義トヲ明クル或ハ軍政ノ方
 針ニ基キ人心ノ安定等ニ知識層ノ獲得ヲ圖ランガ爲ニ戦後
 直ニ日本語學校ヲ開設シ日本語ノ普及日本事情ノ紹介
 地方住民ノ啓蒙ニヨリタルカ文教要員ノ陣容強化ニ伴ヒ
 急速ニ其ノ普及ヲ見都部ヲ問ハズ日本語ノ普及ニハ見ル

所等、充實ニ努ムト共ニ舊教員ニ對シテモ日本の教育ヲ
 進メシ其ノ思想精神ノ切替ヲ行ヒ併セテ日本の教育ノ方針
 及教授方法等ニ通セシメ其ノ實質ノ向上ヲ圖ラシガ爲ニ再教
 育施設トシテ、講習會ヲ邦人文教要員ニ起テ共ニセル指
 導ノ不ニ強カニ實施シソツアリ
 ハ、教育用圖書ノ編纂發行
 教科書ニ關シテハ、明治時代ノ教科書、内容ニ徹底の精
 討ヲ加ヘ日本の教育方針ニ則リ當地ニ事情ニ格適セル新
 教科書ヲ編纂シ一部ヲ以テ地ニ印刷シ速急ニ配付スル方針
 ナリシ處、戦局ノ推移ニ伴ヒ地ニ印刷シ速急ニ配付スル方針
 共ニ現地ニ於ケル資料、印刷能力等益々困難ノ度ヲ加ヘ來レ
 リ、然ルニ教科書青年團指導書其ノ他一般教化用圖書ノ必
 要ハ愈々緊迫ヲ告ゲツツアルニ鑑ミ現下軍政進行上必要
 ナル最少限度ノ教科書類ノ現地自給ヲ確保セシメ陸軍地
 域ニ係員ヲ派シテ必要ナル方途ヲ講ズルノ外、學徒ノ勤勞ニ
 依リ印刷製本ノ自給自足ヲ圖ル等上記困難ノ解決ニ力メツ
 ツアリ
 九、學校ノ疎開
 昭和十九年下半期以來各地區ニヨリテハ學校ヲ地方ニ分散セ

ベキモノアリ
 (二) 日本語學力檢定及日本語手當制度等
 一般地方住民ノ對シ急速ニ日本語ノ普及ヲ圖ルト共ニ進
 ノテ高等ノ日本語ノ學習ヲ獎勵セシメテ通切ナル日本
 語指導書ノ刊行ヲ圖ルト共ニ民政府機關ヲ統一セル日本
 語學力檢定規程及日本語手當支給ノ制度ヲ實施セリ
 尚チイテ新聞等ヲモ日本語普及ノ爲ニ有効ニ使用シツ
 ツ

附表 公學校及中等學校學校數及児童數(戰前ト比較)

一、初等學校數(民政府特別公學校ヲ含マズ)

| 部 | 時期 | 戰前 | 現在 | 差引増 | 備考 |
|-------|----|-------|-------|-----|--------|
| ボルネオ | | 六七七 | 九六九 | 三六二 | |
| セレンベス | | 一、五八三 | 一、七五三 | 一八〇 | |
| ハスンガ | | 二七三 | 五六一 | 一九〇 | バランボリニ |
| 合計 | | 二、四七三 | 三、二九一 | 八三〇 | |

文々

二、初等學校児童數

| 部 | 時期 | 戰前 | 現在 | 差引増 | 備考 |
|-------|----|---------|----------|----------|--------------------|
| ボルネオ | | 五七、六三五 | 一、四四、八四三 | 四七、二〇八 | |
| セレンベス | | 一四九、五三六 | 一、六二、二二四 | 一、二六、八八八 | |
| ハスンガ | | 二九、九四三 | 九六、二九六 | 六六、三五三 | 現在數ハスンガニ 只三知ラケム |
| 合計 | | 二三七、一五四 | 三、六四、三六三 | 一、二六、八四九 | |

備考

一、戰前ノ數字ハ一九四一年ノ調査ニ依ル
 二、ハスンガノ數字ハ關シテハ右統計書ニバリ及ロムボ
 ツク、ミラ、揭記シテ付スンバワ島ノ現在學校數
 一、七同児童數一、七四八ニテ算入セズ

參考

| 部 | 時期 | 戰前 | 現在 | 差引増 | 現在ノ生徒數 |
|-------|----|----|----|-----|--------|
| ボルネオ | | 一三 | 二七 | 一四 | 一七一 |
| セレンベス | | 三〇 | 三二 | 二 | 一八五〇 |
| ハスンガ | | 一六 | 一八 | 二 | 一、二七五 |
| 合計 | | 五八 | 六七 | 一〇 | 四、八三八 |

衛生
醫事衛生

(一)

管内診療施設ノ整備普及ニ付テハ速早ク診療体系整備
網ヲ定メ着々努力中ニシテ從前ノ制度既存ノ施設等利
シ得ルモノハ努メテ之ヲ活用シ不取敢戰前ノ状態ニ復
ハルコトヲ目途トセルモ診療要員ノ充足醫藥品ノ補給等
ニ付テハ今猶満足シ得ル程度ニ至ラズ之ガ対策ニ關シテ
ハ引續キ鋭意努力カシツテ又進出邦人ノ診療ハ努メテ
邦人醫師ヲシテ萬全ヲ期セムル方針ニテ其ノ中心地ヨリ
漸次整備ニ努メ「マカッサル」ニ於テハ一昨年十月十一日ヨ
リ舊民政部病院ヲ「マカッサル」研究所熱帯衛生部診療所ト
シテ運営スルコトトシ各科専門ノ所員ヲシテ研究ト同時
ニ一般邦人及原住民ノ診療ニモ當ラシメ更ニ昨年四月一
日以降ハ本府職業醫師診療所ヲ廢シ府部研究所勤務單獨
ノ診療ヲモ取扱ハシムルコトナリタル處現地民政機構
ノ改革ニ伴ヒ之ヲセバス民政部長カッサル病院ニ於テ
繼承處理セシムルコトナレリ「メナ」ニ開設ノ民政部
病院ニハ一昨年十一月ヨリ外科擔當技師及看護婦ニ名ヲ

(二)

診療所員
原住民勞務者、保健衛生対策完遂上更ニ一般、督勵ニ努
メツツアリ
其、他特殊企業担当者ハ努メテ個有、診療施設ヲ附置
セシムル如ク指導シテ整備中ニテ又邦人醫師ノ進出ヲ
促シ既ニ敎社ニ於テハ之ヲ實現シアルモ時局不緊要ナル
モツツアリ
報ヒツツアリ
小ス、診療所ニ於テハ進出當初ヨリ診療担当者ノ醫師
看護婦アリテ軍屬診療ノ傍ラ所在一般邦人ノ診療ヲモ取
敢商社ノ醫師ヲ僱用シタルハ州知事廳勤務技師等ニ於テ
ヤナツク、既存病院ニモ齒科相當技師ヲ配置セル外不取
尚バリ、ワリハバンニ昨午一月間設、邦人診療所及ボソ
護婦、勤勞邦人並原住民ノ診療ニ成果ヲ擧ゲツ、アリ
院、運トナリ、邦人並原住民ノ診療ニ成果ヲ擧ゲツ、アリ
ヲ計畫シ、昨午四月本府管內最初ノ新築病院トシテ竣功開
政部署ニ在リテハバンニ昨午一月間設、邦人診療所及ボソ
院、運トナリ、邦人並原住民ノ診療ニ成果ヲ擧ゲツ、アリ
護婦、勤勞邦人並原住民ノ診療ニ成果ヲ擧ゲツ、アリ
尚バリ、ワリハバンニ昨午一月間設、邦人診療所及ボソ
敢商社ノ醫師ヲ僱用シタルハ州知事廳勤務技師等ニ於テ
小ス、診療所ニ於テハ進出當初ヨリ診療担当者ノ醫師
看護婦アリテ軍屬診療ノ傍ラ所在一般邦人ノ診療ヲモ取
報ヒツツアリ
其、他特殊企業担当者ハ努メテ個有、診療施設ヲ附置
セシムル如ク指導シテ整備中ニテ又邦人醫師ノ進出ヲ
促シ既ニ敎社ニ於テハ之ヲ實現シアルモ時局不緊要ナル
モツツアリ
原住民勞務者、保健衛生対策完遂上更ニ一般、督勵ニ努
メツツアリ

主要施設
住民職員充當ニハ邦人ノ配置ヲ要スルカモ一般ニハ努メテ
之ヲ加ヘテ其ノ補充ハ極メテ困難ナルハ實情ニ在リ差
置トシテハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
軍地、出ルハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
ハ既ニ卒業シテハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
際、同様措置セルモ卒業シテハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
衛生、即ち養成所ニ於テハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
郡、合モテハハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
シ、不取、昨午四月本府管內最初ノ新築病院トシテ竣功開
地名、運被シ、同午四月本府管內最初ノ新築病院トシテ竣功開
地、ヲリ、豫備的ノ教育實施中ナリ而シテ醫師ニ代ルベ
能、ヲリ、豫備的ノ教育實施中ナリ而シテ醫師ニ代ルベ
ル、年、四月、ハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト
民政、部、ハシヤハ在リ資格者ノ皆ハ轉出ヲ促スト

七月以降五十八名、練習生に付目下養成に努めつつあり、
 之等が成ルベク速に實務に就カシメ診療業務の補充に資
 セントス。向ハスング民政部に於テモ又ホルネオ民政部ハ
 リックパハン州ボンチヤナリ川等ニ對シテモ夫々適宜に
 期間に診療補助手養成ヲ行ヒ主トシテ重要事業場等に配
 ノ計畫實施中ナリ
 衛生
 戰前官製ハ現地製造、低級ナル賣藥程度、外製藥事業
 皆無シ。今ハ現地製造、他方ヨリ輸入シテ依存シアリ
 シ。然レモ戰後ニ補給難ヲ新ハ保有量ノ缺乏急ヲ告グ。實情
 ニ鑑ミ現ニ消費節約相互融通政策ノ利用代用品ノ活用等
 ニ努ムルハ、關稅當局ノ配慮ニ依リ常ニ相當量ヲ確保シ
 漸ク事業ヲ移居レルモ必需醫藥等類次他ヨリ輸入シテ
 期持スルニト愈々困難ヲ感ヘツツアリ。仍テ從來無統制ナ
 リシ現地常用醫藥品目ヲ暫定的ニ約百五種ニ制限シ之ガ
 補給ノ萬全ヲ期スルハ、救急醫藥品等類ヲランベシ。ア、治
 療用ナルバルサン等現地生産不可能ナルモノハ極力外地

ヨリ斡旋ヲ受ケル特別ノ措置ヲ講バルト共ニ現地製藥ノ
 急速ナル發展促進ニ銳意努力中ナリ。而シテ醫藥品交易
 担当者トシテ中央ノ指令ニ依リ進出セルモノハ、武田藥
 品工業株式會社、田邊製藥株式會社及三共株式會社ノ三社
 ニシテ、セレベス地区ハ武田、田邊、ホルネオ地区ハ武田、三共
 ハスング地区ハ武田、田邊、ホルネオ、分担シテ所要量ノ取得配給
 ニ努めつつアリ。

現地製藥
 醫藥品補給對策上、將又産業開發上現地製藥事業ノ重要性
 ニ鑑ミ一昨年五月之ガ企業調査員、巡達方中央ニ電請シ
 タル結果同年七月前記交易担当者、三社ヨリ夫々二名ノ調
 査員派遣セラレタルヲ以テ之ニ地域並ニ事業ヲ指示シテ
 關係各地域ノ實情調査ト企業計畫ニ着手セシメ十月末迄
 一應ノ全貌ヲ取纏メ得タルニ依リ三共ハ昨年二月武田
 田邊ハ同年六月夫々當該民政部長官ノ認可ヲ得テ事業着
 手、運トナレリ。然レトモ本格的ノ製藥化學工場ノ施設ハ
 器材ノ多ク、又現地ニ期待セザルベカラザルニ依リ昨年二
 月以降製藥用各種器具機械等々地積出ヲ了セルモ、事務政等
 ノ為今日ニ至レルモ到着セザルニ付差當リハ現地製藥用資

源ノ利用ト一部輸入素材ヲ以テスル現地即應ノ簡易施設
ニ依ルノ外ナリ各社ヲ合セテ約五十品目ニ付目下着々生
産ノ實績ヲ擧ゲツツアルモ戰局ノ推移ハ工場ノ分散疎離
ヲ餘儀ナクセルノミナラズ原料ノ蒐荷輸送勞力確保等
ニモ幾多ノ隘路ヲ生ゼルガ一方又民需ノミナラズ軍需醫
藥品ノ補給ハ益々現地生産ニ期待スル所大ニ加ヘツツマ
ル現狀ニ鑑ミ關係者等ニ密接ナル連絡協調ニ努メツマ
カツサル研究ヲ熱帯衛生部藥用資源科職員等ノ現場指導
ト相俟テ更ニ一段ト自給方策ノ實施促進ヲ期シ凡ソ爾等
カラ續々ツツアリ而シテ醫藥普及ノ一助ヲラシメメンガ
一段ト擴充強北スルト共ニ醫藥普及ノ一助ヲラシメメンガ
爲費藥制度ニ關スル暫定措置要綱ヲ定メ簡易治療ヲ目途
トスル適正ナル家庭藥ヲ積極的普及ヲ圖ルヲモ眼トシ五
月三日之ニ關スル訓令ヲ發スルト共ニ公定處方費藥トシ
テ第一回令十四種類ヲ決定公示セリ尚現地ニ必要ナルコ
レ迄ナクハ赤痢等ノ瘡防疫及破傷風血清ノ製造ニ付テハ
幾多ノ困難ヲ克服シセレバス民政部瘡品製造所於テ
着々實現セシメタリ

防疫対策

マラリア
マラリア防疫ハ熱帯地開發經營ノ先行的要件トシテ最モ
重要視シ本府進出直後民政部ニ六班各氏政部ニ夫々ニ班
計十二班ノ防疫班編成ヲ委ギ軍事上産業開發上ノ重要地
域ヨリ重点的ニ處理スルノ方針ニ依リ要員資材ノ困難
モ拘ラズ先ツロアリ山海軍燃料廠ノ防疫作業ニ協力セ
ルヲ初メトシホマニ鑛山地區其ノ他飛行場設營道路開發
造船場棉作地城等所屬地區ニ隨處臨機ノ對策ヲ講ジ來レ
ルカ昨年五月ノ行政機構改革ニ伴ヒ之等防疫班ハ擧ゲテ
民政部ニ所屬セシメ各地方ノ實情ニ即應シ更ニ一層ノ機
動性ヲ發揮シ強カナル施策ノ遂行ヲ期スルコトナレリ
仍テボマニ鑛山殊ニマニアン支山ノ最近ノ實情ニ鑑ミ第
一ノ主カヲ此處ニ注ギ十數名ノ職員ヲセレバス民政部ニ
一時轉勤ヲ命ジテ現場ニ派遣シ五月ヨリ三ヶ月ニ亘リ徹
底的措置ヲ講ゼシメ次第ホルネ才民政部管下ノバリツクハ
ハシ及其ノ周邊ノ重要事業場ヲ對象トシテ同様六月末以
來三ヶ月ノ豫定ヲ以テ五名ノ職員ヲ派遣シ更ニ艦隊司令
ノ次第モマリメナド地區ニトシテ附近築城設營地帯ノ徹
底的防疫作業ノ爲新ニ四名ノ職員ニ數名ノ原住民助手ヲ

加ヘテ一班ヲ派遣シ各地トモ頻繁ナル空襲下能ク本系ノ使命遂行ニ邁進時期ニ成果ヲ擧ゲタリ然ルニ其ノ後戰勢ノ轉北ハ之等防疫班ヲ一元的ニ本府ニ所屬セシメ用ニ各地方ニ派遣シ方針ヲ堅持スルハ輸送其ノ他ノ關係上不適當トナレルノミナラズ各地方第一線ノ衛生諸般ノ政策遂行上地方衛生要員ノ增強ヲ急務トスルニ至レルヲ以テ一應防疫班ヲ編成ヲ解体シテ右職員ヲ次々各民政課ニ分散配置シ一般衛生行政ニ當ル傍ラ必要ナル防疫活動ニ支障ナカシムルコトセリ

尚現地防疫作業ノ實施ハ原住民助手ヲ必要トスルノミナラズ之等技術助手ヲ各地方ニ配屬シテ常時管轄地域内ノ防疫作業ニ當ラシメンガ爲メ方針ヲ援手養成暫定規程ヲ定メ既ニ一昨年ニシテ八名ノ技術助手養成所ニ於テ本年四月ヨリ「カツサ」研究熱帶衛生部養成所ニ於テ本格的養成ヲ開始シ毎年八十名ヲ年々同ニ養成ヲ目途トシ第一期四十名ヲ若民政部ヨリ推薦入所セシメタルガ共ノ半数ハ六月ノ實習未完了ノ儘出身地ヘ還送スルノ餘儀ナキニ至レリ依テ民政ノ進展ト現下ノ情勢ニ即應シマカツサ研究熱帶衛生部養成所ニミテ於テ綜合一

衛生

括養成ノ方針ヲ改メ各民政部ニ於テモ任意積極的養成ニ努ムルコトヲセリ

(二)

防疫ニ於ケル主要消化器傳染病トシテ「アメーバ」性赤痢及細菌性赤痢ノ發生常ニ各地ニ相當認メテ中心モチ「アメーバ」性赤痢ノ少數ニ出テ散發ハ程度ニ過ギズ從來ハ之等傳染病ノ隔離收容施設ヲ缺キタルヲ以テ不取敢重慶市中中心ニ漸次之ヲ施設ス普及ヲ期スベク緊要ナルヲ以テ種痘其ノ他ノ預防接種ハ從來ヨリ相當行ハレ居ルヲ以テ大体從來同様ノ方法ニ依リ之ヲ應用セシメ居ルコトニ至ルベシ等

此外赤痢傳染病侵襲防止ヲ主眼トスル檢疫施設ハ管內重要港灣ハケ所ニ新設整備ノ計畫ヲ以テ昭和十七年度ヨリ着手セリモ資材其ノ他ノ關係上漸ク「ボン」ジエルマシニ一部竣功セルヲミエテ他ハ殆ンド未ダニ現狀ナルモ成ルベリ速ニ之ヲ實現ヲ期シ度所存ナリ

從來ノ文獻ニ依レバ南部セシメズ地域ニ所謂「イレバス」コトシテ流行ノ歴史アリ之ガ本態ハ究明ニハ進出當初ヨリ着目シ居レル處ナルガ偶々昨年三月マカツサ市及タカラ地方ニ至ルコトアレテ遂ニ「イレバス」保菌者發生ノ事

(三) 衛生行政、後七月ヨリ八月ニハ「タンボネ」地方ニ患者ニ如保菌者三名九月ニハ同ジリ患者三名保菌者四名十月ヨリ本年一月ニ亘リ同ジリ患者四名保菌者九名何レモ散発的ニ發生シタルヲ以テ其ノ都度強力ナル防疫措置ヲ徹底的ニ勵行スルヲ共ニ詳細ナル實情ヲ調査シ今後ノ對策ニ萬全ヲ期スベリ努力セリ即先ヅ病毒侵入ノ系統ヲ特ニ慎重探究セルニ常ニ外來性ト認ムベキ何芽ノ確證ナク菌ノ性状其ノ他ヨリ考察シ既往ノ記録ニ照レルト全ク同様ノ病原菌ニ依ルモノト認め之ガ潜伏在病毒ノ根絶ヲ期スベリ患者ノ早期發見隔離消毒ノ徹底ヲ防疫措置ヲ勵行スルハ勿論特ニ現地菌株ヲ以テセル豫防疫ノ反覆接種ヲ實施セシムルフトシ差當リ「ワタンボネ」地方所屬地城住民約四十萬ニ對シ目下着々實施中ナリ又「ジャバ」一部ニ存スル「ベム」ノ侵入ニ備ヘテ同方面ヨリ船舶檢疫除鼠ノ勵行ニ努ムルト共ニ常時主要港灣沿岸地倉庫地帯等ノ消毒防疫等ニ付留意警戒セシメツヤリ

(三) 衛生行政、後七月ヨリ八月ニハ「タンボネ」地方ニ患者ニ如保菌者三名九月ニハ同ジリ患者三名保菌者四名十月ヨリ本年一月ニ亘リ同ジリ患者四名保菌者九名何レモ散発的ニ發生シタルヲ以テ其ノ都度強力ナル防疫措置ヲ徹底的ニ勵行スルヲ共ニ詳細ナル實情ヲ調査シ今後ノ對策ニ萬全ヲ期スベリ努力セリ即先ヅ病毒侵入ノ系統ヲ特ニ慎重探究セルニ常ニ外來性ト認ムベキ何芽ノ確證ナク菌ノ性状其ノ他ヨリ考察シ既往ノ記録ニ照レルト全ク同様ノ病原菌ニ依ルモノト認め之ガ潜伏在病毒ノ根絶ヲ期スベリ患者ノ早期發見隔離消毒ノ徹底ヲ防疫措置ヲ勵行スルハ勿論特ニ現地菌株ヲ以テセル豫防疫ノ反覆接種ヲ實施セシムルフトシ差當リ「ワタンボネ」地方所屬地城住民約四十萬ニ對シ目下着々實施中ナリ又「ジャバ」一部ニ存スル「ベム」ノ侵入ニ備ヘテ同方面ヨリ船舶檢疫除鼠ノ勵行ニ努ムルト共ニ常時主要港灣沿岸地倉庫地帯等ノ消毒防疫等ニ付留意警戒セシメツヤリ

衛生

(四) 衛生行政、後七月ヨリ八月ニハ「タンボネ」地方ニ患者ニ如保菌者三名九月ニハ同ジリ患者三名保菌者四名十月ヨリ本年一月ニ亘リ同ジリ患者四名保菌者九名何レモ散発的ニ發生シタルヲ以テ其ノ都度強力ナル防疫措置ヲ徹底的ニ勵行スルヲ共ニ詳細ナル實情ヲ調査シ今後ノ對策ニ萬全ヲ期スベリ努力セリ即先ヅ病毒侵入ノ系統ヲ特ニ慎重探究セルニ常ニ外來性ト認ムベキ何芽ノ確證ナク菌ノ性状其ノ他ヨリ考察シ既往ノ記録ニ照レルト全ク同様ノ病原菌ニ依ルモノト認め之ガ潜伏在病毒ノ根絶ヲ期スベリ患者ノ早期發見隔離消毒ノ徹底ヲ防疫措置ヲ勵行スルハ勿論特ニ現地菌株ヲ以テセル豫防疫ノ反覆接種ヲ實施セシムルフトシ差當リ「ワタンボネ」地方所屬地城住民約四十萬ニ對シ目下着々實施中ナリ又「ジャバ」一部ニ存スル「ベム」ノ侵入ニ備ヘテ同方面ヨリ船舶檢疫除鼠ノ勵行ニ努ムルト共ニ常時主要港灣沿岸地倉庫地帯等ノ消毒防疫等ニ付留意警戒セシメツヤリ

(四) 衛生行政、後七月ヨリ八月ニハ「タンボネ」地方ニ患者ニ如保菌者三名九月ニハ同ジリ患者三名保菌者四名十月ヨリ本年一月ニ亘リ同ジリ患者四名保菌者九名何レモ散発的ニ發生シタルヲ以テ其ノ都度強力ナル防疫措置ヲ徹底的ニ勵行スルヲ共ニ詳細ナル實情ヲ調査シ今後ノ對策ニ萬全ヲ期スベリ努力セリ即先ヅ病毒侵入ノ系統ヲ特ニ慎重探究セルニ常ニ外來性ト認ムベキ何芽ノ確證ナク菌ノ性状其ノ他ヨリ考察シ既往ノ記録ニ照レルト全ク同様ノ病原菌ニ依ルモノト認め之ガ潜伏在病毒ノ根絶ヲ期スベリ患者ノ早期發見隔離消毒ノ徹底ヲ防疫措置ヲ勵行スルハ勿論特ニ現地菌株ヲ以テセル豫防疫ノ反覆接種ヲ實施セシムルフトシ差當リ「ワタンボネ」地方所屬地城住民約四十萬ニ對シ目下着々實施中ナリ又「ジャバ」一部ニ存スル「ベム」ノ侵入ニ備ヘテ同方面ヨリ船舶檢疫除鼠ノ勵行ニ努ムルト共ニ常時主要港灣沿岸地倉庫地帯等ノ消毒防疫等ニ付留意警戒セシメツヤリ

般住民へ、對策ヲ進ムル方針ニテ精進出邦人ハ環境ノ劇變等ニ依リ發病ノ懸念多キヲ以テ之ヲ防止ト早期診療及健康保護等ニ付適宜指導シツアリ療養所ノ新營病棟ノ増設等計畫セルモ各種ノ事情ニ妨ゲラレ之ガ實現渺マシカラズ

(五) 性病

本病モ亦原住民間ニ相當浸淫セルモノト認メラレ邦人ノ淋病防止ニ付テハ精進ヲ用フル要アリ公認慰安場ノ檢徴ト相俟テ豫防知識ノ啓發サリテ製造普及等ニ努メ兼レモ最近漸クマカツカレ及バンジエルマシジノ一般邦人ノ罹病者多キヲ加フル傾向觀取セラレルニ依リ一般ノ自戒自肅ヲ促スハ尤モ更ニ適切ナル對策ヲ實施スベリ目下檢討ヲ加ヘツツアリ

四、主要疾病對策

熱帶地ニハ前記傳染病ノ外風土病的ニ或多ノ疾病存シ人的資源ノ確保戰力増強等ニ多大ノ障礙ヲ及ボスヲ以テ夫等ニ付テモ能ク其ノ實態ヲ檢討シツツ重點的ニ適宜措置シ之ガ制遏ニ努メツツアリ特ニ邦人間ニモデング熱脚氣寄生蟲病呼吸器病疾患皮膚病等ノ罹患者相當多シ尙精神病ニ付テハ

差當リ公安保持上監置ヲ要スル者ノ收容施設整備ニ努メシメツツアリ又管內ニハ約ニ千七百名ノ阿片癮者アリ至トシテ華僑ニシテ現地住民厚生ノ見地ヨリスレバ此ノ際阿片ノ吸食ハ斷然禁壓スルヲ適當ト認メタルモ軍需ノ回收其ノ他財政政策上ノ見地モアリ新ナル癮者ノ發生ヲ防止スルハ勿論ナルガ現ニ癮者タル華僑及原住民ニシテニナ五歲以上ノ若ニ限リ最少限度ノ量ヲ限定シ身費ノ手續ヲ輕テ吸食ヲ認ムルフトトセリ而シテ吸食量ハ常ニ醫學的監視ヲ加ヘテ漸次減量セシムル如クシ一方密輸濫用等ヲ嚴ニ取締リ成ルベク速ナル時期ニ管內ノ癮者ヲ根絶セシムルヲ方針ナリ

五、勞務衛生對策

戰力増強ヲ一途ニ急スル現地ノ開發生産ヲ期センガ爲ニハ原住民勞務者ノ勞働力ニ期待スル所頗ル大ナリ然ルニ之等勞務者間ニハマラリヨ赤痢ハ固ヨリ熱帶潰瘍ヲランベシト及テ其ノ他各種ノ皮膚疾患等稼働力ニ著シキ障礙ヲ及ボス數多ノ疾病蔓延セルノミナラズ榮養其ノ地一般衛生狀態亦極メテ不良ト認メラレ之ガ保健衛生對策ニ萬全ヲ期スルハ刻下喫緊ノ要務ナリ衛生當局風ニ之等ニ所望ノ施策ヲ講シ米レルモ時局益々多

端トナレルニ依リ昨年六月差當リ十項目ヲ示シテ之ガ積極
的具體策ヲ實施ス所アリ更ニ八月末原住民勞務者ヲラ
シベシヲ根絶シ策實施單領ヲ定メ特ニ確保セルハルサ
シヨ官費ヲ以テ配給シ重要事業場ヨリ重點的ニ目下着々實
施セシメツツアル外隨時各事業場ノ實情ヲ查察シ或ハ實地
專門技術官ヲ派遣シテ對策ヲ指導徹底ニ努ムル等銳意努力
中ナルモ更ニ根本的對策ニ付關係當局トモ協力シ急速ニ具
體化ニ努メツツアリ

六、保健衛生其他、施策
現地ニ於ケル保健衛生對策ハ醫療防疫及各種疾病對策ト常
ニ表裏一體ヲ爲シ極メテ重要ナルカ差當リハ一般保健衛生
思想ノ普及啓蒙榮養ノ改善飲食物ノ取締環境衛生其他、衛生
生活ノ改善指導等ニ意ヲ用ヒ適宜體力鍊成其ノ他、厚生
施策ヲモ加味シテ漸次一般衛生狀態ノ改善向ヒテ期セハト
ス
尚時局下非常時救急醫療對策ニ關シテモ所屬地域ニ於ケル
救護班ノ編成訓練救急資材ノ確保分散防護等ニ萬全ヲ期セ
シメツツアリ
而テ之等衛生諸施策ハ常ニ現地即應ノ科學ニ立脚セル有効

衛生

適切ナル方策ヲラシムル要アルヲ以テマカッサル研究所熱
帶衛生部トハ特ニ緊密ナル連絡ヲ保持シ定例連絡委員會ヲ
開催シ調査研究事項ヲモ時局ノ要請ニ對處シ得ベキ超國境
的、モノニ集中速ニ實績ヲ擧ゲシメツツアリ然レ共今後
現地民政機構ノ改革ニ依リマカッサル研究所熱帶衛生部
措置ニ關シテハ戰局ノ現段階ニ即應シ最モ高率の措置トシ
テ一應實驗所ハ主トシテボルネオ民政部ニ轉屬セシメタル外主ト
シテセレバス民政部ニ製造所及養成所ハ擧ゲテ之ヲセレベ
ス民政部ニ移管ノゴトトシ又當府スラバヤ連絡所設置ニ伴
ヒ職員ノ一部ヲ同所ニ配置スル等努メテ機能ヲ低下セシム
ルコトナク最モ有効ニ活動セシムル如クシ各民政部ニ於ケ
ル施策ノ實施ヲ強力且具體的ニ指導督勵スルコトニ重點ヲ
置キ主要事項ニ付着々進捗中ナリ

七、總括
要之現下ノ衛生諸施策ハ總テ軍ノ作戰ト重要産業開發ニ積極
的ニ寄與スルコトヲ目的トシツツ原住民ヲシテ皇國國民
ノ恩惠ニ浴セシムルコトヲ期シ時局下幾多困難ナル事情ヲ
克服シツツ漸次所期ノ効果ヲ擧ゲルニ銳意努力中ナリ

其ノ他一般衛生状態概不良好ニ經過シツアリ

民政府令第四二號

南方事業經理措置令左ノ通定ム

昭和二十年六月二十三日

南西方面海軍民政府總監 三橋孝一郎

南方事業經理措置令

第一章 總則

第一條 南西方面海軍民政府管轄區域内ニ於テ本邦人ノ經營又ハ支配スル事業(以下南方事業ト稱ス)ノ利益金ノ處分 傾却其ノ他經理ニ関シテハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令ニ定ムル所ニ依リ但シ南方事業ヲ經營又ハ支配スル者(以下事業者ト稱ス)ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ民政部長官ノ許可ヲ受テ本令ハ適用ノ免除ヲ受クルコトヲ得

第二條 事業者ハ本東亞戰爭遂ニ為南方事業ニ課セラレタル國家ノ代行機關的使命ヲ達成シ國家ノ要請ニ應ジテ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ関シテ各號ニ據テ事業項ヲ遵守ス旨トスベシ

一 資金ノ急ガ最モ損益ニ活用シ苟モ人的及物的資源ノ濫費ニ陷ルカ如

キコトハ嚴ニ之ヲ避クルコト
二 經費ノ支出及資産ノ償却ヲ適正ナラシムルコト
三 利益金ノ處分ヲ適正ナラシメ自己資金ノ蓄積ニ努ムルコト
第三條 事業者ハ南方事業ノ經營ニ關スル責任者ヲ定メ民政部長官ニ届出シ
バシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ
民政部長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ責任者ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
第四條 事業者ハ南方事業ニ付其ノ他ノ事業ト區分經理シ常ニ其ノ投資及
經營ノ收支ヲ明確ナラシムベシ
第五條 事業者ハ各事業年度ノ利益金ニ付其ノ二十分ノ一以上ヲ準備金トシ
テ積立ツベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ民政部長官ノ許可ヲ受ケタ
ルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ準備金ハ每事業年度ノ缺損ノ填補ニ充ツル場合ヲ除クノ外之ヲ使
用スルコトヲ得ズ
第六條 事業者ハ每事業年度終了後二月以内ニ當該事業年度ノ決算狀ヲ
民政部長官ニ報告スベシ

前項ノ報告書ニハ當該事業年度ノ財産目錄、貸借對照表、損益計算
書及利益金處分ニ關スル明細書ヲ添付スベシ
第七條 民政部長官必要アリト認ムルトキハ事業者ニ對シ第五條第一項ノ準
備金ノ外ニ積立金ノ積立其ノ他利益金ノ處分及積立金ノ運用方法ニ付
必要ナル命令ヲ為スコトヲ得
前項ノ積立金ハ民政部長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
第八條 事業者ハ機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之と同
様ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム）ニ付豫メ基準月額
ヲ定メ民政部長官ノ認可ヲ受ケバシ之ヲ増額セントスルトキ亦同ジ
第九條 事業者ハ每事業年度ニ於テ支出セントスル國防献金及恤兵金以外
ノ寄附金其ノ他之と同様ノ性質ヲ有スル支出ニ付豫メ其ノハ計金ヲ定
メ民政部長官ノ認可ヲ受ケバシ之ヲ増額セントスルトキ亦同ジ
第十條 事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ固定資産ノ償却ヲ為スベシ但シ民政部
長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十一條 民政部長官ハ南方事業ノ經費ノ支出、資産ノ償却及餘裕資金

ノ運用ニ関シ必要ナル命令ヲ為スコトヲ得

第十二條 民政府總監又ハ民政部長官必要アリト認ムルトキハ南方事業ノ資産負債及損益ノ内容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ関シ報告ヲ徴シ又ハ部下職員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第二章 指定南方事業

第十三條 指定南方事業トハ南方事業ノ中ヨリ民政府總監ノ指定シタルモノヲ謂フ

前項ノ指定ハ民政府總監之ヲ告示シテ之ヲ為ス

第十四條 指定南方事業ノ經理ハ當該指定南方事業以外ノ南方事業ノ經理トシテ區分計算スベシ

第十五條 指定南方事業ヲ經營又ハ支配スル者(以下指定事業者ト稱ス)ハ別ニ定ムル原價計算要綱ニ準ジテ依リ各工場事業場毎ニ原價計算ヲ施行スベシ但シ原價計算ノ施行著シク困難ナル事業ニシテ民政部長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 民政部長官ハ指定事業者ヨリ原價計算期毎ニ前條ニ依リ計算セル原價ニ関スル報告ヲ徴シ之ヲ監査スベシ

第十七條 指定事業者其ノ生産品(用役ヲ含ム以下同シ)ヲ賣却スル場合ニ於ケル生産品ノ原價ハ原價ニ適正利益金額ヲ加算セル金額ニ依リ民政部長官之ヲ決定ム

前項ニ依ルヲ適當ナラズト認メラレル事情アルトキハ民政部長官ハ民政府總監ノ指示ヲ承ケ當該生産品ノ原價ノ決定ニ付別途措置スルコトヲ得

第十五條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ原價計算ヲ施行セザル工場事業場ノ生産品ノ價格ハ前二項ニ準ジテ之ヲ決定ス

指定事業者自己ノ生産品以外ノ物ヲ賣却スル場合ニ於ケル當該物品ノ原價ノ決定ニ付テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十八條 前條ニ規定スル適正利益金額ハ各生産品ノ原價ニ適正利益率ヲ乗ジテ得タル金額トス

前項ノ適正利益率トハ指定事業者ノ經營資本金額ニ對シ年九分ヲ標準トセル率ヲ乘ジテ得タル金額ヲ當該事業年度ニ於ケル豫想賣上品總原

價ヲ以テ除シテ得タル率ヲ謂フ

第十九條 本令ニ於テ經營資本金額トハ當該南方事業本米ノ目的タル事業

ニ現實ニ運用サレタル資産ヨリ官ノ所有ニ屬スル又ハ融産タル固定資産

ヲ扣除シタル資産ノ價格ニ相當シテ資本金額(借入金ヲ含ム)ニ當該事

業年度ノ平均額ヲ謂フ但前條ノ經營資本金額ハ當該事業年度其首

ニ於ケレ豫想現在額ニ依ル

第二十條 指定事業者ハ毎事業年度開始ノ二月前迄ニ第十七條ニ規定ス

ル生産品ノ單價ニ付其ノ見積額ヲ算出シ民政部長官ニ提出スベシ

民政部長官第十七條ノ規定ニ依リ生産品ノ單價ヲ決定シタルトキハ其ノ決

定シタル金額ヲ當該事業年度開始ノ一月前迄ニ指定事業者ニ通知スベシ

第二十一條 指定事業者ハ當該事業年度ニ於テハ民政部長官ノ決定シタル

金額ヲ超ユル單價又ハ下ル單價ヲ以テ其ノ生産品ヲ賣却スルコトヲ得

單價決定後第十七條ノ規定ニ依ル單價ノ構成要素ニ著シキ變化アリシ

場合ニ於テハ民政部長官ハ其ノ決定シタル金額ヲ變更スルコトヲ得

第二十二條 指定事業者ハ固定資産及流動資産ニシテ官ヨリ貸付ヲ受

ルモノ(融産ヲ含ム)ト指定事業者ニ於テ新設、擴張又ハ取得セルモノトノ

區分ヲ明確ナラシムベシ

第二十三條 指定南方事業ニ於ケル利益金ハ毎事業年度左ノ各號ニ依リ之

ヲ處分スベシ

一 利益金ガ指定事業者ノ經營資本金額ニ對シ第十八條ニ規定スル經營

資本金額ニ對スル乗率ヲ乘ジテ得タル金額ヨリ借入金ノ利子(第二十

五條ノ利子ヲ含ム)相當額ヲ扣除シテ得タル金額ニ達スル迄ハ之ヲ指

定事業者ノ收益トス

前號ノ指定事業者ノ收益額ヲ超過セル利子ハ其ノ七割ヲ標準

トシテ之ヲ官ニ納付セシメ殘額ハ指定事業者ノ收益トス

前項ノ利益金トハ總益金ヨリ總損金ヲ扣除シテ得タル金額ヲ謂フ

第二十四條 指定事業者ハ前條ノ規定ニ依ル收益額ガ經營資本金額ニ對

シ年一分ノ率ヲ乘ジテ得タル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ノ三割以上ヲ

損失補填積立金トシテ積立ツベシ

指定事業者ハ第五條ノ規定ニ依ル積立金ノ積立ヲ為スヲ要セス

第一項ノ積立金ハ第二十六條第二項又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依
外之ヲ處分スルコトヲ得ズ
第二十五條 指定南方事業ノ本店タル事業經營者ガ指定南方事業ノ爲
下シタル資本ニ對スル利子ハ年五分トシ之ヲ本店勘定ニ付替フベシ
第二十六條 戰時災害其ノ他指定事業者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因
指定南方事業ニ生ジタル損失ハ之ヲ補償ス
前項ノ損失補償ハ第二十四條ノ損失補填積立金アルトキハ其ノ處分ニ依
ルモ猶填補シ得ザル金額ニ付テノミ之ヲ行フ
第二十七條 戰時災害其ノ他指定事業者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因
指定事業者ノ收益額ガ經營資本金額ニ對シ年一分ニ相當スル金額ニ
不足スルトキハ事情ニ依リ其ノ不足額ヲ限度トシテ報償金ヲ賦與ス
前項ノ報償金賦與ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
第二十八條 民政部長官必要アリト認ムルトキハ指定事業者ニ對シ指定南方
事業ニ屬スル資産ニシテ戰爭保險ノ目的タル物ヲ戰爭保險ニ付スベキコト
ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 第十八條ニ規定スル經營資本金額ニ對スル乘率 第二十三條ノ超
過利益ノ官ハノ酬付率及第二十七條ノ報償金ノ額ハ事業ノ種類、性質並
ニ其ノ業績等ヲ勘案シテ民政部長官之ヲ定ム
第三十條 超過利益金ノ報酬並ニ損失金ノ補償及報償金ノ賦與ハ各事業
ノ年度ニ付計算シ之ヲ行フ
第三十一條 指定事業者ハ第六條ノ規定ニ依リ決算報告書ノ提出ニ先立テ當
該事業年度ノ損益計算書及利益金處分案ヲ作成シ民政部長官ノ認可
ヲ受クベシ
前項ノ損益計算書及利益金處分案ニハ當該事業年度ノ貸借對照表及
財産目錄ヲ添付スベシ
第三章 雜則
第三十二條 民政部長官必要アリト認ムルトキハ令施行ニ關スル事務一
部ヲ管下南方開發金庫支金庫、出張所職員ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
第三十三條 事業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ本令ニ基ク制限ヲ免ル
ル行為ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條 民政部長官必要アリト認ムルトキハ本令ニ基テ職權ノ一部又ハ全部ヲ州知事ニ委任スルコトヲ得

第四章 罰則

第三十五條 本令ノ規定又ハ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ監禁又ハ三千盾以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 規定ニ依リ報告ヲ為サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ為シ又ハ實地検査ニ際シテ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ妨ゲ忌避シ若ハ虚偽ノ記載ヲ為シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ関シ前條ノ違反行為ヲ為シタルトキハ行為者ノ罰スレノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ前條ノ罰金刑ヲ科ス

附則

第三十八條 本令ハ昭和二十年四月一日ヨリ指定南方事業ニ付テノミ之ヲ施行ス但シ第八條ノ規定ハ指定南方事業以外ノモノニ付テモ之ヲ適用ス

第四章ノ規定ハ本令公布ノ日以降ノ犯行ニ付之ヲ適用ス

第三十九條 本令ノ規定ハ第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ヲ除クノ外各指定南方事業ニ付本令施行ノ日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

第二十條 第二十四條及第二十六條ノ規定ハ各指定南方事業ニ付當該事業開始年度ニ遡リ之ヲ適用ス但シ既ニ損益金ノ處理完了セル事業年度分ニ付テハ民政部長官ノ認可ヲ受ケ從前ノ取扱ニ依ルコトヲ妨ゲズ

第三十條 指定事業業者ハ本令施行後六月以内ニ本令施行前終了セル毎事業年度ノ貸借對照表、損益計算書、財産目錄及利益金算合ニ關スル書類ヲ工場事業場別ニ作成シ民政部長官ニ提出スベシ

第四十條 本令ニ於テ民政部長官トアレハ民政府總監ノ直接監督スル事業ニ付テハ民政府總監トス

南政務部長

海軍省南方政務部長殿

民政府訓令第三二號

昭和二十六年六月二十三日

南西方面海軍民政部總務
三橋孝一郎

各民政部長官殿

南方事業經理措置令ニ関スル件訓令

首題ノ件昭和二十年四月一日ニ廻リ實施シタルニ付別紙南方事業經理
措置令運用方針ニ基キ之ガ運営ニ遺憾ナキヲ期スベシ

(別紙添)

(終)

寫送付先

海軍省軍務局長、海軍省經理局長、海軍省南方政務部長、第二南遣艦隊參謀長、第百二海軍經理部長、昭南左勤海軍武官、ジャカルタ在勤海軍武官、各州知事

刑

南方事業經理措置令運用方針

第一條關係

本條ニ於テ事業トハ國公共團體又ハ之ニ準ズルモノ以外ノ經營

二 本條ニ於テ事業者トハ本令施行地内ニ事業ヲ有スルモノニシテ

本邦ニ於ケル法令ニ依リ設立セザレタル法人ノ経営ニ係ルモノ

本邦ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ經營ニ係ルモノ

本邦人が其ノ出資額又ハ議決權ノ過半ヲ占ムル法人ノ經營ニ係

三、事業主が本邦人ナルモノ

ホ、前各號ニ掲グルモノ、外此眞金魚堂方其ノ依高長ニ寸

觀云當談筆業、算算與是實材、不手、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

本會施行也。又本店又ハ主タル事務所ヲ有スル事業ニ在リテ、其

全事業ノ經理ニ付其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在スル地ノ民政部長官之ヲ
統轄ス(例之各農民銀行、各物資配給組合、セレベス民船運航會)但シ
民政府總監ノ直接監督スル事業ニ在リテハ民政府總監之ヲ統轄ス(例之
コブラ管理組合)

ロ 本令施行地外ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル事業ニ在リテハ其ノ本
令施行地内ニ於ケル支店又ハ從タル事務所毎ノ經理ニ付其ノ所在スル地
ノ民政部長官之ヲ統轄ス但シ民政府總監ノ直接監督スル事業ニ在リテ
ハ本令施行地内ニ於ケル全事業ノ經理ニ付民政府總監之ヲ統轄ス(例之
國際電氣通信株式會社、映画配給社、日本映画社、各損害保險事
業擔當業者、各新聞社、同盟通信社)

四 本條但書ノ規定ニ依リ免除ハ個人事業中經理統制ノ要ナキモノ又ハ經理
統制ガ著シク困難ナリト認めラルモノニ付テノミ之ヲ為スコト

第四條關係

一 南方事業ノ役員又ハ職員ノ給與ヲ本店勘定ニ於テ支給シタル場合之ガ
南方勘定ハ付替ハ「事業給與統制令」ノ認ムル範圍ニ於テ之ヲ認ムル

コト但シ南方事業ノ職員ノ賞與ヲ本店勘定ニ於テ支給シタル場合之ガ南
方勘定ハ付替ハ利益金處分ニ依リ支給シタル部分ニ付テハ之ヲ認メザ
ルコト

二 在勤慰勞金ハ南方勘定負擔トス

三 退職積立金ハ本店勘定負擔トス

四 南方事業ノ役員又ハ職員ノ平慰金 見舞金ハ南方勘定負擔トシテ
認ムルコト

第五條關係

一 本令ニ於テハ一決算期ヲ以テ一事業年度ト看做スコト

二 本條但書ノ規定ニ依リ許可ハ左ニ掲グ場合等ニ之ヲ為ス

イ 既往事業ノ年度ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ準備金ノ積立ヲ相當程度ニ爲
シタル南方事業ガ職員賞與ヲ其ノ基本給料ノ合計金額ノ四分ノ三ヲ超
スル支給セントスル場合ニ於テ其ノ超過金額ノ支給ヲ事業給與統制令
第三十五條ノ規定ニ依リ利益金處分ニヨリ為スヲ要スル爲メ當該準備
金ノ全部又ハ一部ノ積立ヲ爲ムヲ得タル場合

ロ、既往事業年度ニ於テ本條ノ規定ニ依ル準備金ノ積立ヲ相當程度為シ
爾後ニ於テハ寧ロ退職積立金、災害扶助積立金等別途ノ積立金
積立ヲ為スヲ適當ト認メラレル場合

本條ノ規定ニ依ル準備金ノ積立ヲ相當程度為シテリヤ否、ハ當該事業
ノ經營規模、事業ノ性質ヨリ見タル危険程度、公衆ノ事業實績ニ
依ル損益ノ状況等ヲ勘案シ具體的ニ之ヲ判断スルコト

第六條關係

一、規定期日以内ニ決算ノ終了又ハ正式書類ノ提出不能ナル場合ニハ一
應假決算報告書ヲ提出セシメタル後可及的速ニ正式報告ヲ為シシムルコト

第七條關係

一、本令施行地外ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル事業ノ利益金ハ差當リ
原則トシテ本令施行地内ニ積立シシムルモノトシ特別ノ事情ニ依リ本店
送金ヲ必要トスル場合ハ概ネ昭和十八年十二月二十九日附南政機密第
一〇三七號「南方海軍地域ヨリノ事業關係内地送金取扱要領」關スル
件連牒「別紙第二」南方事業ヨリ生ジタル利益金ノ本邦向送金ノ取扱

要領ニ基キ送金ヲ取歸レモノトス

尚現實ニ送金ヲ為サザル本店勘定ハ、付替ニ付テモ右ニ準ジ之ヲ取
歸レモノトス

二、積立金ノ運用方法ニ關スル命令ハ左ニ掲グル場合等ニ之ヲ為ス

イ、當該積立金ノ性質ニ照シテ、支出ガ近キ將來又ハ隨時ニ起ルモノト

豫想セララルル為當該積立金ニ換價容易ナル預金ニ運用セシム

ト認メラレル場合

ロ、貯蓄ノ増強、緊要ナル事業ノ創設等ノ重要ナル政策ニ寄与セシム

ル為銀行等ヘノ預入、一定事業ヘノ投資等ヲ要スト認メラレル場合

第八條關係

一、基準月額ハ概ネ別表ニ定ムル金額ヲ標準トシ當該事業ノ業種、業績
及既往年度ノ支出實績ヲ勘案シ之ヲ認可スルコト

第九條關係

本條ノ規定ニ依ル合計金額ハ左記金額ヲ標準トシテ之ヲ認可スルモノハ
當該事業ノ直前ノ事業年度ノ純益金ノ百分ノ二・五ニ相當スル金額（直前

ノ事業年度ノ月数が當該事業年度ノ月数ト異ル場合ニハ當該金額ヲ直前ノ事業年度ノ月数ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月数ヲ乗ジテ得タル金額ト當該事業年度初ノ經營資本金額ニ左ニ掲ケル割合ヲ乗ジテ得タル金額(當該事業年度ノ月数が十二未満ノトキハ當該金額ヲ十二ヲ以テ除シテ得タル金額ニ當該事業年度ノ月数ヲ乗ジテ得タル金額)トノ合計金額ノ五
分ノ一二相當スル金額

經營資本金百萬盾以下ナルトキ

千分ノ三・五

經營資本金百萬盾ヲ超エ千萬盾以下ナルトキ

千分ノ三・〇

經營資本金千萬盾ヲ超エ五萬盾以下ナルトキ

千分ノ二・五

月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未満ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月ニ切上ゲ

第十一條關係

- 一 經費ノ支出ニ關シテハ給與ニ付「事業給與統制令」ニ基キ之ヲ統制スルノ外福利施設、研究費等ノ名目ヲ以テスル支出ニ付不急不要ト認メラレモハ嚴ニ之ヲ抑制スル如ク常ニ指導スルコト
- 二 資産ノ償却ニ關スル命令ハ左ニ掲ゲル場合等ニ之ヲ為ス

イ 創業費ニシテ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上シタルモノアルトキハ其ノ計上シタル金額ヲ事業開始ノ後(若シ開業前ニ利息ヲ配當スルコトヲ定メタルトキハ其ノ配當ヲ止メタル後)五年内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ為サシムルコト

ロ 同種同規模ノ他ノ南方事業ニ比シ固定資産ノ減價償却ガ著シク不足シ又ハ辨済ヲ受クル見込ナキ不良債權ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スル等事業ノ基礎ヲ著シク薄弱ナラシムル虞アリト認メラレル場合ハ其ノ資産ニ付適當ナル償却ヲ為サシムルコト

第十四條關係

- 一 指定南方事業委託契約ニ基キ受託經營スル工場事業場ナル限リ數箇ノ工場事業場ヲ一括經營スルヲ原則トスベキモ所在地、生産費等ノ關係ヨリ一括經營ヲ適當トセザル場合ニ於テハ工場事業場毎ニ區分計算ヲ行ハシムルコト

第十五條關係

- 一 本條ニ規定スル原價計算ニ關スル要綱並ニ準則ハ追テ通牒スベキコト

二 右通牒アル迄ハ令第二條ノ精神ニ照シ各事業ヲシテ適算ナル原價計算ヲ為サシムルコト

第十六條關係

一 令第二十一條第二項ノ規定ノ運用上令第十五條但書ノ規定ニ依リ原價計算ヲ施行セザル事業ニ付テモ勘クトモ四半期毎ニ原價ニ関スル資料ヲ提出セシムルコト

二 運用方針第十五條關係ニ依ル原價計算ヲ為サシムル間ハ四半期毎ニ原價ニ関スル報告ヲ為サシムルコト

第十七條關係

一 本條第二項ノ別途ノ措置ハ左ニ掲グル場合等ニ於テ之ヲ行フモノトスルコト
イ 現地價格政策遂行上ノ見地ヨリシテ第一項ノ單價ノ決定方法ニ依ル適算ナラズト認めラレル場合（生鮮食料品ノ如ク其ノ價格ニ一定ノ幅ヲ持タシムル場合ヲ含ム）

ロ 前年度ノ貴損ヲ翌年度以降ノ價格ニ織込ミ填補スルコトガ各般ノ事業ヨリ見テ適當ト認めラレル場合

第十八條關係

一 經營資本金額ニ對スル乘率ハ借入金ノ利率、業種、原價及品質等ヲ勘案シ經營上適正ナル利益ヲ確保シ以テ生産率ノ向上ヲ刺激スル如ク貴損ニ即應シテ之ヲ定ムルコト

二 左ニ関シ特ニ斟酌スベキ場合左ノ如シ

イ 原價計算ニ関スル準則ノ定ムル所ニ依リ原價ニ算入シ得ザル目ノ損金ガ相當多額ニ上ルモノト豫想セラレル事業ニ付令第二十七條ノ規定ニ依リ損失補償ノ能否、當該事業ノ生産品ト同種物質ノ市價其ノ他諸般ノ事情ヲ勘案シ將來生ズベキ損失金ノ全部又ハ一部ヲ適正利益率ニ加味シテ之ヲ償ハシムルヲ適當ト認めル場合

ロ 新規ノ事業、經營ノ改善等ニ依リ同種同規模ノ他ノ事業ニ比シ其ノ原價ヲ著シク低廉ナラシメタル事業ニ付一定期間報償的意味ニ於テ適正利益率ヲ引上グルヲ適當ト認めル場合

ハ 事業年度ノ中途ニ於テ月次計算等ノ資料ニ依リ實現スベキ利益金額ニ著シキ変動ヲ生ズルコトヲ豫想セラレル場合

第十九條關係

- 一 經營資本金額ノ算定ハ差當リ本店勘定、銀行借入金及積立金、合計金額ニ繰越益金アル場合ハ之ヲ加算シ繰越損金アル場合ハ之ヲ控除シタル金額ニ依ル
- 二 當該事業年度ノ平均額ハ當該事業年度ノ各月末現在額ノ平均額ニスル
- 三 事業年度ノ中途ニ於テ事業計画等ニ照シ經營資本金額ノ増減が確實ニ豫想ヒラル場合ニ限リ當該豫定増減額ニ當該事業年度ノ月數ニ對スル増減後ノ當該事業年度ノ月數ノ割合ヲ乘シテ得タル金額ヲ加算又ハ控除シテ豫想現在高ヲ算出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ當該事業年度ノ月數又ハ増減後ニ於ケル當該事業年度ノ月數ニ端數ヲ生ジタルトキハ各之ヲ一月ニ切上グルコト

第二十一條關係

- 一 經營資本金額ノ年度中途ニ於ケル突發的増減、原材料入手方法ノ變更其他單體決定後ノ生産條件ノ變更等ニシテ事業ノ損益狀況ニ著

シキ影響ヲ及ボスコト明カナルモノアルトキハ本條第二項ニ依ル單價ノ變更ニ依リ豫メ其ノ影響ヲ免ルルヲ得ルコト

第二十三條關係

總益金又ハ總損金ノ計算ニ際シハ左記諸事ニ留意スルコト
イ 前期ヨリノ繰越益及繰越損ハ總益金及總損金ニ之ヲ含マザルモノトスルコト

ロ 或ル事業年度ノ利益又ハ損失ニ付爾後ノ事業年度ニ於テ令第二十三條ノ納付金又ハ令第二十六條ノ補償金、令第二十七條ノ報償金ノ授受アリタルキハ之ヲ當該事業年度ノ總損金又ハ總益金ニ算入セザルコト

第二十五條關係

一 本店ノ投下資本、目録資本、借入資本、別ノ問ハズ其條ニ投下セル總額ノコスト從テ設備費等ノ價額ハ南方事業ニ投下セラレタル時ニ於ケル設備價額タルベキコト

第二十六條關係

本條及令第二十七條ニ於テ其他指定事業ノ責ニ歸スベカラザル事由

トハ天災地変、客觀的狀勢ノ急變ニ因ル事業計畫ノ齟齬等指定事業者ノ故意又ハ重大ナル過失トハ認メラレザルモノヲ謂フ

第二十七條關係

一 報償金ノ賦與ハ指定事業者ノ努力ノ跡顯著ナルモノニ對シ其ノ業績等ヲ勘案シテ之ヲ為スモノトシ借入金ノ多寡ニ依リ機械的ニ其ノ金額が増減セラルル如キ弊ニ陥ラザラシムル如ク留意スルコト

第二十八條關係

一 指定南方事業が戰時災害ニ因リ蒙ル資産上ノ損害ニ對シテハ投下資産ニ對シ總テ戰爭保險契約ヲ締結セシムルコトニ依リ之ガ補償ノ策ヲ講ズルモノトス

二 從テ戰爭ニ依ル危險が認メラレ且付保可能ナルニ拘ラズ付保セザルニ因リテ生ジタル資産上ノ損害ハ令第二十六條及第二十七條ノ適用ニ際シテハ之ヲ指定南方事業ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ生ジタルモノト認メザルモノトス

第二十九條關係

一 經營資本金額ニ對スル乘率、超過利益納付率及報償金額ノ決定ニ當リテハ相互ノ關聯性ニ充分留意スルコト

第三十一條關係

一 本條ニ依リ認可ニ當リテハ本店ヘノ付替ハ第二十五條ニ定ムル利子ノ外運用方針第七條關係一ニ依リ原則トシテ之ヲ認メザルモノトスルコト

二 本條ニ依リ認可ヲ受ケタル指定事業者ニ付テハ令第六條ノ決算報告書ノ提出ヲ省略セシメ得ルコト

(終)

(別表)

機密費等又、廣告宣傳費等基準月額算定表

機密費等

廣告宣傳費等

(萬分率)

| 當該事業年度初、経営資本金額 | 機密費等 | 廣告宣傳費等 |
|------------------------|-------|--------|
| 経営資本金二十萬盾以下ナルトキ | 一〇・〇〇 | 四・二六 |
| 経営資本金二十萬盾ヲ超エ三十萬盾以下ナルトキ | 九・五〇 | 三・三六 |
| 経営資本金三十萬盾ヲ超エ五十萬盾以下ナルトキ | 九・〇〇 | 二・七〇 |
| 経営資本金五十萬盾ヲ超エ七十萬盾以下ナルトキ | 八・五〇 | 二・二一 |
| 経営資本金七十萬盾ヲ超エ百萬盾以下ナルトキ | 八・〇〇 | 一・九八 |
| 経営資本金百萬盾ヲ超エ二百萬盾以下ナルトキ | 六・九六 | 一・五六 |
| 経営資本金二百萬盾ヲ超エ三百萬盾以下ナルトキ | 五・九四 | 一・三四 |
| 経営資本金三百萬盾ヲ超エ四百萬盾以下ナルトキ | 四・八四 | 一・一三 |
| 経営資本金四百萬盾ヲ超エ五百萬盾以下ナルトキ | 三・九四 | 〇・九六 |
| 経営資本金五百萬盾ヲ超エ七百萬盾以下ナルトキ | 三・三三 | 〇・八五 |
| 経営資本金七百萬盾ヲ超エ一千萬盾以下ナルトキ | 二・九四 | 〇・七四 |
| 経営資本金一千萬盾ヲ超エ | 二・六六 | 〇・六三 |

| | | |
|--------------------------|------|------|
| 經營資本金千萬盾ヲ超エ千五百萬盾以下ナルトキ | 二・三八 | 〇・五二 |
| 經營資本金千五百萬盾ヲ超エ二千萬盾以下ナルトキ | 二・一七 | 〇・四九 |
| 經營資本金二千萬盾ヲ超エ二千五百萬盾以下ナルトキ | 二・〇二 | 〇・三九 |
| 經營資本金二千五百萬盾ヲ超エ三千萬盾以下ナルトキ | 一・九一 | 〇・三六 |
| 經營資本金三千萬盾ヲ超エ四千萬盾以下ナルトキ | 一・七八 | 〇・三二 |
| 經營資本金四千萬盾ヲ超エ五千萬盾以下ナルトキ | 一・六六 | 〇・二八 |
| 經營資本金五千萬盾ヲ超エ七千萬盾以下ナルトキ | 一・五七 | 〇・二五 |
| 經營資本金七千萬盾ヲ超エ一億盾以下ナルトキ | 一・四九 | 〇・二一 |
| 經營資本金一億盾ヲ超エ一億五千萬盾以下ナルトキ | 一・三九 | 〇・一七 |
| 經營資本金一億五千萬盾ヲ超エ二億盾以下ナルトキ | 一・三二 | 〇・一五 |
| 經營資本金二億盾ヲ超エ二億五千萬盾以下ナルトキ | 一・二七 | 〇・一三 |
| 經營資本金二億五千萬盾ヲ超エ三億盾以下ナルトキ | 一・二四 | 〇・一二 |
| 經營資本金三億盾ヲ超エ四億盾以下ナルトキ | 一・一八 | 〇・一〇 |
| 經營資本金四億盾ヲ超エ五億盾以下ナルトキ | 一・一四 | 〇・〇九 |
| 經營資本金五億盾ヲ超エルトキ | 一・一〇 | 〇・〇八 |

(決定第一五八號)

南方事業ノ整理ニ付テ後援スル件 (昭和二十年五月二十日)

南方事業ニシテ戦争進行上ノ要請ニ基キ現地機關ノ指示ニ依リ整理セラレタル場合其ノ整理等ニ關シテハ左記ニ依ルモノトス

第一 整理南方事業

記

一 事業ノ廢止又ハ休止ノ時ヲ以テ事業年度ヲ打切り既往事業年度分ノ整理ニ關シテハ「南方事業ノ整理等ニ關スル件」ニ依リ整理スルコト

二 休業止事業ノ設備資材等ノ轉用ニ當リ其ノ處分價額ノ評價ニ付テハ原則トシテ轉用前ノ用途ヲ基準トスル適正時價ニ依ルモノトスルコト

三 廢止シタル事業ノ清算ニ關シテハ左ニ依ルコト

(一)「南方事業ノ整理等ニ關スル件」ニ依リ整理ノ結果南方事業ニ歸屬シタル利益金及積立金ハ之ヲ本店決定ニ付替フルコト

(二)前項ニ依リ付替ヘタル金額ハ本店ノ當該事業年度ニ於ケル利益金ト

海 軍

英海軍第十三行軍部(給水部)

シテ整理スルコト

(一) 債務整理ニ當リ債務ノ返済ハ左ノ順位ニ依ルコト但シ擔保權ノ行使ヲ妨ゲザルコト

(二) 本邦金融機關以外ノ者ニ對スル債務(本店ニ對スル債務及社内預り金ヲ含ム)

(三) 本邦銀行ヨリノ借入金

(四) 南方開發金庫ヨリノ借入金

(五) 前各號ノ債務返済ニ付テハ夫々左ニ依ルモノトシ本店タル事業經營者ニシテ南方事業ノ債務ニ付替ハシメザル如ク擔置スルコト但シ事業經營者又ハ經營責任者ノ責ニ歸スベキ事由ニ依リ損失金ハ此ノ限ニ在ラザルコト

(六) 本邦金融機關以外ノ者ニ對スル債務ノ返済不能ナルトキハ其ノ限度ニ於テ軍政會計又ハ國庫ニ於テ之ヲ填補スルコト但シ本店

海 軍

ノ南方事業ニ對スル投資ニシテ南方開發金庫ヨリノ借入金ニ依
リタル部分ハ(イ)ニ依リ處理スルコト

(四)本邦銀行ヨリノ借入金ノ返済不能ノ場合ニ於ケル銀行ノ損失ニ
付テハ別途措置スルコト

(イ)南方開發金庫ヨリノ借入金ノ返済不能ノ場合ニ於ケル同金庫ノ
損失ハ南方開發金庫法ノ規定ニ依リ之ヲ補償スルコト

(五)殘務整理ノ結果資産超過トナリタルトキハ其ノ超過額ヲ軍政會計
又ハ國庫ニ納付セシムルコト

同整理スベキ事業ノ内休止事業ハ必要已ムヲ得ザルモノニ限定スルコト
トシ、其ノ殘務整理ニ付左ニ依ルコト

(一)軍政會計又ハ國庫ニ於テ左ニ散當スルモノヲ補給スルコト

(イ)當該事業ノ設備ノ保存ニ必要ナル經費(保険料ヲ含ム)

(四)本店ニ對スル債務ニ付一定ノ割合ニ依リ利子

海 軍

(二)本邦金融機關ノ當該事業ニ對スル同收未済貸付金ハ差當リ之ヲ補
償クコト

其休廢止事業ノ従業員ノ俸給等ニシテ本邦ニ於テ支拂ヲ要スルモノハ之
等ノ者ノ再配置セラレタル事業ノ經營者ニ於テ負擔スル如ク措置スル
コト

第三其ノ他ノ事業

其ノ他ノ事業ニ付テハ原則下ニシテ當該事業ノ責任ニ於テ整理ヲ實行スル
モノトスルコト但シ設備資材ノ轉用等ニ當リ蒙ルベキ損失ハ本邦ニ於ケ
ル金業整備措置ニ準ジ軍政會計又ハ國庫ニ於テ之ヲ補償スルコトヲ得ル
コト

備考

本件實施ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

海 軍

英海軍第十三行軍紙(第未納)

英海軍第十三行軍紙(第未納)

(決定中一三四號)

南方事業ノ経理等ニ関スル件

(昭和十九年九月二十二日
陸海軍省軍務局長官會議決定)

南方事業ノ経理等ノ関シテハ戰局ノ進展隨テ即應シ事業ノ経理等ヲシテ
経費ノ度限ヲ額定スルコトヲ必要ノ要請ニ即應シ極力注意ニ事業
日増進成ニ邁進セシムル為差當ニ記ニ依リ處理スルコトトス

託

才一、出費、南方事業

一、重要南方事業ノ指定ニ運送等ノ項

一、南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス
余、重要南方事業ノ指定ニ付テハ於テ必要ノ指定以下指定南方事
業ト稱ス

海 軍

陸海軍省軍務局長官會議決定

陸海軍省軍務局長官會議決定

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス
余、重要南方事業ノ指定ニ付テハ於テ必要ノ指定以下指定南方事
業ト稱ス

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス

一、指定南方事業ノ取立、運送ヲ伴フ、及、重要南方事業ニシテ戰局ノ進
行ニ緊要ナルモノニ付ハ特殊ノ要ニ基キ早ニ決定スルコトトス

海 軍

一、本件借置の適正なることを爲す爲に、南方事業の整理等、爲スルハ

二、本件実行の細目ハ列ニ定ム

三、本件実行の細目ハ列ニ定ム

海軍

（鈴木納）

一、指定南方事業の範圍ハ、當リ在ノ事業ニテ、本委員會ハ、八六衆

（昭和十三年九月二日）

（鈴木納）

一、指定南方事業の範圍ハ、當リ在ノ事業ニテ、本委員會ハ、八六衆

二、本件実行の細目ハ列ニ定ム

三、本件実行の細目ハ列ニ定ム

四、本件実行の細目ハ列ニ定ム

五、本件実行の細目ハ列ニ定ム

六、本件実行の細目ハ列ニ定ム

海軍

英領事十三行部紙（第本附）

一、陸軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 二、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 三、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 四、指定南方事業ニ對シ適用スベキ各基準ハ左記ニ依ルモノトス

備考
 一、陸軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 二、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 三、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 四、指定南方事業ニ對シ適用スベキ各基準ハ左記ニ依ルモノトス

海軍

英領事十三行部紙（第本附）

一、陸軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 二、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 三、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 四、指定南方事業ニ對シ適用スベキ各基準ハ左記ニ依ルモノトス

備考
 一、陸軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 二、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 三、海軍軍政地域ニ於テハ當該地域軍政會計ニ於テ行フモノトス
 四、指定南方事業ニ對シ適用スベキ各基準ハ左記ニ依ルモノトス

海軍

一、金額、當該事業年度ノ平均額トス
二、本店ノ投下資本ハ自己資本ノ別ヨリ公算投下セル總額トス
三、本店ニ対スル利子、借入金利子ハ事業ニ係ル利益金中ヨリ其額ヲ
モトス

四、損益金ハ事業ノ經營者ノハ經營責任者ノ方カノ跡額著セルモノニ對シ
シ其ノ業績ヲ勘案シテ賦課スルモノトシ且借入金ノ多寡ニ依リ機械
的ニ報償金ノ金額ガ増減セラルル弊ヲ消スル如ク經營資本ノ金額
ニ對シ年一カノ基準ニテ算出セル金額ノ範圍内ニ於テ適宜賦課額ヲ
定ムルモノトス

五、指定南方事業ニ對スル課税

一、本店勘定ニ付替ヲ為サザル指定南方事業ノ利益金又ハ損失金ニ付テ
ハ未決算勘定トシテ處理スルコトトシ將來收支決算確定シ益金ヲ
本店勘定ニ繰入ルトキハ當該益金ヲ繰入レタル事業年度ノ益金トシテ

海軍

課税スルコト

二、一、四、一ニ依リ本店勘定ニ付替ヘタル投下資本ニ對スル利子並ニ南方事
業ニ付生ジタル利益金ニシテ本店勘定ニ付替ヘタルモノニ付テハ本邦ニ
於テ生ジタル益金トシテ課税スルコト

備考

一、收支決算確定後ノ納税、準備等ニ充ツル為利益金中相當額ヲ
積立テシムル如ク指導スルモノトス

二、本店勘定ニ付替ヲ為サザル指定南方事業ノ利益金ニ對シテハ日
本則現地當局ニ於テ課税セザルモノトス

六、適用時期

一、指定南方事業ニ對スル超過利益金、收納並ニ損失金ノ補償及び
報償金ノ賦課等ニ付テハ五ニ依ル
二、超過利益金ノ收納損失金ノ補償ハ當該事業開始年度ニ溯リ適用スル

海軍

三ノトス

但シ損益金ノ處理完了セル事業ニ對シテハ從前ノ取扱ニ依ルコトヲ好ムモノトス

二本店勘定ニ對スル利子ノ付替並ニ報償金ノ賦與ハ本件決定後ノ事業年度ヨリ適用スルモノトス

三補填積立金ノ積立金並ニ右ニ關スル基準ハ當該事業開始年度ニ溯リ適用スルモノトス

但シ損益金ノ處理完了セル事業ニ對シテハ從前ノ取扱ニ依ルコトヲ好ムモノトス

二指定南方事業ニ對スル課税ニ關スル措置ハ既ニ處理済ノモノコ除キ當該事業開始年度ニ溯リ適用スルモノトス

明治三十二年三月十四日

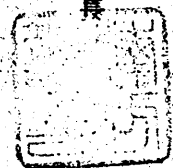
海軍省

南政機密第一〇一號

昭和二十年三月十四日

關係各社社長 殿

海軍省南方政務部長



南方事業投下資本等資料ノ件照會

郵局並ニ内地空襲激化ノ情勢ニ鑑ミ此ノ際首當資料整理シ置ク必要アリ付別紙ニ記入シ上四月十五日迄ニ各三部提出相成度

(別紙「第一」「第二」各三通、「第三」一通)

(終)

三ノトス
 一、損益金ノ處理完了セル事業ニ対シテハ從前ノ取扱ニ依ルコトヲ好ミサルモノトス
 二、本店勘定ニ對スル利子ノ付替並ニ救済金ノ賦與ハ本店決定後ノ事業年度ヨリ適用スルモノトス
 三、補填積立金ノ積立金並ニ右ノ因スル基準ハ當該事業開始年度ニ適用スルモノトス
 四、損益金ノ處理完了セル事業ニ對シテハ從前ノ取扱ニ依ルコトヲ好ミサルモノトス
 五、指定南方事業ニ對シテ課税同スル措置ハ既ニ處理済ノモノコ除キ當該事業開始年度ニ適用スルモノトス

海 中

南政機密第一〇一號

昭和二十年三月十四日

海軍省南方政務部長

關係各社社長 殿

南方事業投下資本等資料ノ件照會

戰局並ニ内地空襲激化ノ情勢ニ鑑ミ此ノ際南政資料整理シ置ク必要アリニ付別紙ニ記入シ上四月十五日迄ニ各三部提出相成度

(別紙「第一」「第二」各三通、「第三」一通)

(終)

(別紙一)

南方事業ニ對スル投下資本金調 (20.3.31現在)

會社名

| 科目 | 業種別・事業所別投資額 | | | | | 合計 | 備考 |
|---------------------|-------------|--|--|--|--|----|----|
| | | | | | | | |
| 物件費 | | | | | | | |
| 材料費 | | | | | | | |
| 南方派遣員 経費 | | | | | | | |
| 南方事業 管理費 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | |
| 支利息 | | | | | | | |
| 南方ヨリノ 受送金額 | | | | | | | |
| 差引南方事業 勘定残高 | | | | | | | |
| (附) 南資本金 庫ヨリノ借入金 | | | | | | | |

REEL No. A-1179

0100

アジア歴史資料センター

(別紙二)

今後南方事業ノ爲本邦ニ於テ必要トスル經常的經費年額調

貸主名

| 科 目 | | 金 額 | 備 考 | | |
|---------------------|-------|-----|-----|---|---|
| 南方派遣員等費 | 給 | | 現在員 | | |
| | 給與。手當 | | 役員 | 名 | 間 |
| | 其ノ他 | | 職員 | 名 | 間 |
| | 計 | | 其ノ他 | 名 | 間 |
| 南方事業管理費 | 人件費 | | 在員 | | |
| | 事務費 | | 役員 | 名 | 間 |
| | 事務所費 | | 職員 | 名 | 間 |
| | 計 | | 其ノ他 | 名 | 間 |
| 合 計 | | | 計 | 名 | 間 |
| (附) 借入金利子 繰上額 | | | | | |
| | 其ノ他 | | | | |

(別紙一)

南方事業ニ關スル投下資本金調 (20.5.31現在)

會社名

| 科目 | 業種別・事業所別投資額 | | | | | 合計 | | 備 |
|---------------------|-------------|--|--|--|--|----|--|---|
| | | | | | | | | |
| 物件費 | | | | | | | | |
| 材料費 | | | | | | | | |
| 南方派遣員 経費 | | | | | | | | |
| 南方事業 管口費 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | |
| 支利息 | | | | | | | | |
| 南方ヨリノ 受送金額 | | | | | | | | |
| 差引南方事業 勘定残高 | | | | | | | | |
| (附) 南發本金 庫ヨリノ借入金 | | | | | | | | |

REEL No. A-1179

0190

アジア歴史資料センター

(別紙第二)

今後南方事業人爲本邦ニ於テ必要トスル經常的經營年額調

會社名

| 科 目 | | 金 額 | | 備 考 | |
|---------------------|------|-----|--|-----|---|
| 南方派遣員經營費 | 遣 給 | | | 現在員 | 名 |
| | 給與手當 | | | 役員 | 名 |
| | 其ノ他 | | | 職員 | 名 |
| | 計 | | | 其ノ他 | 名 |
| 南方事業管理費 | 人件費 | | | 現在員 | 名 |
| | 事務費 | | | 役員 | 名 |
| | 事務所費 | | | 職員 | 名 |
| | 計 | | | 其ノ他 | 名 |
| 合 計 | | | | 計 | 名 |
| (附) 借入金利子 繰上額 | 繰上額 | | | | |
| | 其ノ他 | | | | |

REEL No. A-1179

0 : 9 : 1

アジア歴史資料センター

(別紙一)

南方事業ニ對スル投下資本金調 (20.3.31現在)

會社名

| 科 目 | 業種別・事業所別 投資額 | | | | 合 計 | | 備 考 |
|---------------------|--------------|--|--|--|-----|--|-----|
| | | | | | | | |
| 物 件 費 | | | | | | | |
| 材 料 費 | | | | | | | |
| 南方派遣員 經 費 | | | | | | | |
| 南方事業 管 理 費 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | |
| 支 拂 利 息 | | | | | | | |
| 南方ヨリノ 受 送 金 額 | | | | | | | |
| 差引南方事業 勘 定 残 高 | | | | | | | |
| (附) 南發本金 庫ヨリノ借入金 | | | | | | | |

REEL No. A-1179

0192

アジア歴史資料センター

(別紙第二)

今後南方事業ノ爲本邦ニ於テ必要トスル經常的經營年額調

會社名

| 科 目 | | 金 額 | | 考 | | |
|---------------------|-------|-----|--|-----|---|---|
| 南方派遣員經營費 | 給 | | | 現在員 | | |
| | 給與手當 | | | 役 員 | 名 | 間 |
| | 其 他 | | | 職 員 | 名 | 間 |
| | 計 | | | 其ノ他 | 名 | 間 |
| 南方事業管理費 | 人 件 費 | | | 計 | 名 | 間 |
| | 事 務 費 | | | 現在員 | | |
| | 事 務 所 | | | 役 員 | 名 | 間 |
| | 計 | | | 職 員 | 名 | 間 |
| 合 計 | | | | 其ノ他 | 名 | 間 |
| 計 | | | | 計 | 名 | 間 |
| (附) 借入金利子 繰 額 | 利 子 | | | | | |
| | 其ノ他 | | | | | |

REEL No. A-1179

0193

アジア歴史資料センター

別紙第三

註要領

本表ハ昭和二十年三月末現在ニ付作製ノコト
 一 投下資金ハ借入金ニ依ルト自己資金ニ依ルトニ拘ラズ全テ記載ノコト
 二 物件費、材料費ニハ運賃、荷造費等諸掛ヲ含ムモノトス
 三 物件費、材料費ニハ現地既着ノモノ、輸送途次ノモノ、未精送ノモノ
 四 事故喪失ノモノ等ノ内譯ヲ備考欄ニ簡記ノコト
 五 物件費、材料費ニハ今般ノ滞資資材轉活用措置ニ依リ轉用(賣却)決定タルモノ及豫定ノモノハ一切之ヲ記載セザルコト、但シ確保ヲ指定サレタルモノニシテ南方事業勘定ニ付録シアルモノハ記載ノコト
 六 南方派遣員經費トハ支給、給與、兼任諸費、生命保険料等トス
 七 支拂利息ハ當該南方事業ノ爲メ内地借入金ノ分トス
 八 南方事業管理費及支拂利息ニシテ各業種、事業所別ニ明瞭ニ區別シ得ルモノ、他ハ投下資本、派遣員數、利率等ニヨリ適宜各業種、事業

内

内

所ニ配分スルコト、此ノ場合配分方法ヲ備考欄ニ記載ノコト
 九 業種別、事業所別投資額欄ニハ一社ニテ數業種又ハ數事業所ヲ有スル場合夫々各業種、各事業ニ對スル投資額ヲ記載ノコト

記入例

| 科目 | 業種別・事業所別投資額 | | | 合 計 | 備 考 |
|-------------|---------------|---------------|--------------|-----------|-------------------|
| | 木材開發 ハルカハル | ホチヤウ ハルカハル | 農 産 ハルカハル | | |
| 南方事業 管理費 | 2,567,008 | 1,232,002 | 200 90 | 4,000,000 | 設備資金ノ投下額 ニヨリ配分 |

- 一〇 南方ヨリ、受送金額ニハ送金目的ヲ備考欄ニ簡記ノコト
- 一一 各科目ニ該當セサルモノハ適宜ノ科目ヲ掲ゲ内空ヲ備考欄ニ記載ノコト
- 一二 別紙第二ノ經費ハ最少必要限度ノ額ヲ記載ノコト
- 一三 南方事業管理費中人件費ハ専ラ南方事業ノ事務ニ關スル者ノ俸給給與、諸手當、旅費等事務費ハ通信費、消耗品費等トス

紙用紙ハ適宜別途作製スルモ可ヘ但シ様式ハ本紙ニ準ズルコト
五本紙不足ノトキハ用紙調製ノ上敷枚ニ百ルモ可
五本件ニ關スル問合ハ當部江波主計大尉ニセラル度

(終)